

令和元年度

# 茨木市埋蔵文化財発掘調査概報

—令和元年度国庫補助事業—

令和2年（2020年）3月



茨木市教育委員会



## 序 文

私たちの住む茨木では、北半部は老ノ坂山地の麓で、南半部には大阪平野の一部をなす三島平野が広がり、温暖な気候と豊かな自然に恵まれたベッドタウンとして過ごしやすい環境のもと、古来数多くの歴史が育まれてきました。

文化施設の充実をはじめ、安心・安全なまちづくりをめざして発展をとげた本市は、交通の利便性や京都・大阪間という立地の良さも手伝い大規模な開発も少なくありません。昨今の時勢のなか、開発に伴う埋蔵文化財の調査は全国的に減少傾向にあるのに対し、本市では緩やかながら増加しています。

本書は、令和元年度に実施した個人住宅建設工事に伴う発掘調査の概要報告書です。これら一つ一つを積み重ねた調査成果が、郷土茨木の歴史遺産として広く活用されることを願ってやみません。

調査の実施にあたりましては、土地所有者、施工関係者、近隣住民の皆様にはご理解と多大なご協力を賜りました。また、文化庁、大阪府教育庁ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただき、茨木市の文化財保護行政が推進できましたことを感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

令和2年3月31日

茨木市教育委員会

教育長 岡田祐一



## 例　　言

1. 本書は、令和元年度国宝重要文化財等保存・活用事業費市内遺跡発掘調査等事業（総額7,200,000円の内、国庫3,600,000円、市費3,600,000円）として実施した個人住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。令和元年度として、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの期間で発掘調査及び整理作業を実施した。ただし本書では、整理作業の都合から平成31年1月から令和元年12月末までに調査を終了したものを対象に報告する。
2. 調査の実施は、本市教育委員会歴史文化財課調査管理係職員川村和子、木村健明、坂田典彦、高村勇士、富田卓見、正岡大実、宮西貴史があたり、阿部ともよ、岡篤史、川西宏実、川畠康雄がこれを補助した。
3. 本書の執筆は各調査担当者がおこない、正岡が編集にあたった。また、上記職員に加えて清水邦彦がこれを補助した。
4. 遺物、図面・写真等の記録は茨木市立文化財資料館〔〒567-0861大阪府茨木市東奈良三丁目12番18号 TEL072-634-3433〕にて保管している。広く活用されることを希望する。

## 凡　　例

1. 本書で使用する標高はT.P.（東京湾標準海水面）で表記する。各挿図に掲載する表記の内、M.N.は磁北を示し、表記のないものは国土座標系〔第VI系〕に基づく座標北を示す。
2. 挿図及び本文中の土色表記は、小山正忠、竹原秀雄 編著『新版標準土色帖』（2014年版）に基づく。また、地層の粒度の記載に関しては、基本的にWentworth（1922）の区分を使用した。
3. 遺物の実測図のうち、弥生土器・土師器・石製品の断面は白抜き、須恵器は黒塗り、瓦器・瓦質土器・黒色土器の断面はアミカケで示した。
4. 本書における遺構、遺物の時期決定には主に以下の文献を参考とした。  
森田克行 1990『摂津地域』『弥生土器の様式と編年 近畿編II』木耳社  
古代の土器研究会編 1996『古代の土器4 煮炊具（近畿編）』真陽社  
小森俊寛 2005『京から出土する土器の編年的研究』京都編集工房  
中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社  
九州近世陶磁学会事務局編 2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会

# 本文目次

序 文	
例言・凡例	
目 次	
第1章 地理・歴史的環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 令和元年度調査地一覧	3
第3章 調査の成果	5
第1節 荘木遺跡	5
第2節 郡遺跡・信賀道路・春日道路・中穂積道路・三島街道	8
第3節 東奈良遺跡・中条小学校遺跡	16
第4節 太田遺跡・西国街道・鶴持寺遺跡	24
第5節 舟木遺跡・牛礼道路	31
第6節 五日市道路・三宅城跡	33
写 真 図 版	
抄 錄 ・ 奥 付	

# 挿図・表目次

図 1 荘木市地図	1	図 29 調査区配置図(東奈良遺跡)	18
図 2 令和元年度発掘調査位置図	4	図 30 平・断面図・出土遺物(東奈良遺跡 2019-1)	18
図 3 荘木遺跡調査位置図	5	図 31 平・断面図(東奈良遺跡 2019-4)	19
図 4 断面図(莊木遺跡 2018-5)	6	図 32 平・断面図・出土遺物(東奈良遺跡 2019-5)	20
図 5 断面柱状図(莊木遺跡 2019-1)	6	図 33 平・断面図・出土遺物(東奈良遺跡 2019-7)	21
図 6 断面柱状図(莊木遺跡 2019-2)	7	図 34 平・断面図(東奈良遺跡 2019-6)	22
図 7 出土遺物(莊木遺跡 2019-2)	7	図 35 中条小学校遺跡調査位置図	23
図 8 断面柱状図(莊木遺跡 2019-5)	7	図 36 断面柱状図・出土遺物(中条小学校遺跡 2019-3)	23
図 9 郡遺跡・信賀道路・春日道路調査位置図	8	図 37 太田遺跡・西国街道調査位置図	24
図 10 中穂積道路・三島街道調査位置図	8	図 38 調査区配置図(太田遺跡)	24
図 11 郡遺跡・三島街道調査位置図	8	図 39 平・断面図・出土遺物(太田遺跡 2018-3)	25
図 12 調査区配置図(郡遺跡 2018-5)	9	図 40 平・断面図(太田遺跡 2019-1)	25
図 13 平・断面図(郡遺跡 2018-5)	9	図 41 平・断面図(太田遺跡 2019-2)	26
図 14 断面柱状図(中穂積道路・三島街道 2019-1)	10	図 42 平・断面図(太田遺跡 2019-3)	27
図 15 調査区配置図(信賀道路 2019-1)	10	図 43 出土遺物(太田遺跡 2019-3)	28
図 16 平・断面図・出土遺物(信賀道路 2019-1)	11	図 44 調査区配置図(西国街道 2019-1)	28
図 17 調査区配置図(春日道路 2019-2)	12	図 45 平・断面図(西国街道 2019-1)	29
図 18 平・断面図(春日道路 2019-2)	12	図 46 鶴持寺遺跡調査区位置図	30
図 19 調査区配置図(春日道路 2019-5)	13	図 47 平・断面図(鶴持寺遺跡 2018-4)	30
図 20 平・断面図(春日道路 2019-5)	13	図 48 舟木遺跡・牛礼道路調査位置図	31
図 21 調査区配置図(郡遺跡・三島街道 2019-2)	14	図 49 断面柱状図(舟木道路 2019-1)	31
図 22 平・断面図・出土遺物(郡道路・三島街道 2019-2)	14	図 50 断面柱状図(牛礼道路 2019-1)	32
図 23 調査区配置図(信賀道路 2019-3)	15	図 50 五日市道路調査位置図	33
図 24 平・断面図・出土遺物(信賀道路 2019-3)	15	図 61 調査区配置図(五日市道路 2019-1)	33
図 25 東奈良遺跡調査位置図	16	図 62 平・断面図(五日市道路 2019-1)	33
図 26 断面柱状図(東奈良遺跡 2018-8)	17	図 63 三宅城跡調査位置図	34
図 27 調査区配置図(東奈良遺跡 2018-9)	17	図 64 調査区配置図(三宅城跡 2019-1)	34
図 28 平・断面図(東奈良遺跡 2018-9)	17	図 65 平・断面図(三宅城跡 2019-1)	34

# 写真図版目次

図版 1 春日道路	図版 5 東奈良遺跡	図版 9 太田道路
図版 2 春日道路	図版 6 東奈良遺跡	図版 10 太田道路
図版 3 郡道路・三島街道	図版 7 東奈良遺跡	図版 11 太田道路
図版 4 信賀道路	図版 8 東奈良遺跡	図版 12 太田道路

第1章 地理・歷史的環境

## 第1節 地理的環境

茨木市は、大阪府の北部に位置し、南北 17.05km、東西 10.07km と南北に長く、東西に短い形で市域を形成しており、北は京都府亀岡市、東は高槻市、南は摂津市、西は吹田市・箕面市・豊能郡豊能町に接している。市域は、北東—南西方向に走る有馬—高槻構造線によって、大きく南北二つに区分される。北半部はおおむね標高 300m 前後の秩父古生層系の岩石により構成される北摂山地と、そこから派生する丘陵部からなる。南半部は、西側に標高 50 ~ 100m 前後の前期洪積層の隆起地形の一つである大阪層群で形成された千里丘陵が南北に伸び、東側に北摂山地を源とする安威川・佐保川・茨木川等によって形成された沖積層からなる三島平野が広がっている。

## 第2節 歷史的環境

ここでは、茨木市域における遺跡の分布やその内容を中心に、各時代の概要を時代順に述べておく。

旧石器時代 周辺地域に比べて希薄ではあるものの、太田遺跡から国府型ナイフ形石器や剥片類が採集されているほか、宿久庄遺跡や郡遺跡、佐保川流域ではナイフ形石器や尖頭器等が確認されている。

縄文時代 中期～後期にかけて、千提寺南遺跡や西福井遺跡、初田遺跡等の山地から丘陵部に立地する遺跡において遺構や遺物が認められている。晚期には遺跡数が増加し、耳原遺跡や五日市東遺跡、總持寺遺跡等の段丘ないし段丘縁辺部上のほか、牟礼遺跡や東奈良遺跡等の沖積平野上においても遺跡が出現するようになる。なお、耳原遺跡からは土器植鉢 16 基からなる墓域がみつかっている。

弥生時代 弥生時代になると遺跡数の増加が顕著になる。前期には東奈良遺跡、耳原遺跡、牟礼遺跡等の縄文晩期から続く遺跡のほかにも目垣遺跡、郡遺跡、倍賀遺跡等に集落が形成される。なかでも、東奈良遺跡は環濠を幾重にもめぐらした集落を形成しており、質・量ともに極めて豊富な遺構・遺物が確認される等、弥生時代を通じて突出した内容を示す遺跡である。なお、東奈良遺跡からは国の重要文化財に指定されている石製銅鐸鋳型・銅戈・ガラス製品の鋳型・送風管等の中期の鋳造関連遺物が出土しており、集落内に高い鋳造技術をもった集団が存在していたものと推測される。中期の遺跡は、主要河川の两岸や丘陵部にまで広がり、中条小学校遺跡や中河原遺跡、太田遺跡、溝呬遺跡、春日遺跡等が出現する。後期には宿久庄遺跡、安威遺跡、總持寺遺跡等においても集落が展開する。

古墳時代 古墳時代に入ると、市域各所で様々な古墳が築造されるようになる。前期には、紫金山古墳・將軍山古墳が相次いで築造される。ともに後円部に竪穴式石室を持つ全長100mを超す前方後円

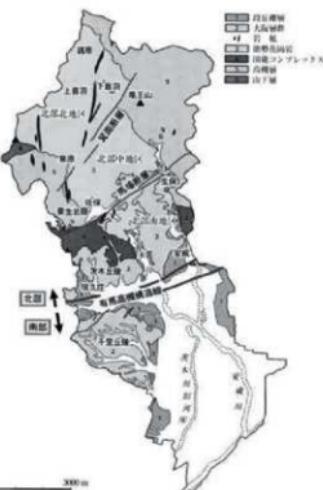


図1 茨木市地質図(木庭2012)

墳である。中期になると、三島地域最大である太田茶臼山古墳が造営される。全長 226 m、後円部径 138m の前方後円墳であり、現在は宮内庁により「三鷗藍野陵」として治定されている。後期には山麓部から丘陵部を中心に、横穴式石室を主体とする青松塚古墳、南塚古墳、海北塚古墳、耳原古墳等の単独墳が築造される一方で、安威古墳群、将軍山古墳群、新屋古墳群等の群集墳が認められる。また、丘陵部から沖積平野部を中心とした太田遺跡、総持寺遺跡、中条小学校遺跡、郡遺跡等の遺跡において埋没古墳群の存在が明らかとなっている。このほか、古墳時代の集落遺跡としては、東奈良遺跡、中条小学校遺跡、春日遺跡、倍賀遺跡、郡遺跡、安威遺跡、総持寺遺跡等が代表的な遺跡として挙げられる。安威遺跡からは朝鮮半島南部由来の遺物・遺構が多く出土しており、本市域における古墳時代集落の動態を考える上で極めて重要である。

古代 奈良時代に入ると、茨木市域は摂津国島下郡に編成される。平城遷都にともない、島下郡には「殖村駅」が置かれ、茨木市域は宮都から難波や山陽・西海道諸国への公的な通路となる。7世紀後半ごろには太田廢寺・穂積廢寺・三宅廢寺等の寺院が建立され、太田廢寺からは、塔心礎とその内部に納められた舍利容器一具等が発見された。9世紀以降においても、総持寺や忍頂寺をはじめとする寺院が市域各地に建立される。また、いわゆる延喜式神名帳には島下郡に 13 社もの神社が規定されており、そのうち 10 社が現在の茨木市域に所在している。都から大宰府へと向かう山陽道、難波方面へと向かう三島路が交わる地点にある茨木市域は、政治・文化・交通の要所であったといえる。

中世～近世 中世の遺跡としては、郡遺跡、東奈良遺跡、宿久庄遺跡、玉櫛遺跡、真砂遺跡等の集落遺跡が代表的な遺跡として挙げられる。一方、中世から近世初頭の遺跡には、茨木城、三宅城、福井城、泉原城、佐保砦などの城館跡がある。市域中心部に位置する茨木城は、城主の変遷によりその内容や規模も変化すると考えられるが、一国一城令により廢城になった後も、その周辺の水路や地割等は現在まで影響している。しかしながら、茨木城や廢城後の近世在郷町の実態はなお不明な点が多く、限定的ながらも発掘調査によって得られる知見は、その解明に向けてとりわけ重要である。このほか、国史跡に指定されている西国街道沿いに位置する郡山宿本陣は「椿の本陣」とも呼ばれ、江戸時代には西国大名たちの参勤交代にも利用された。また、市域北部の集落である千提寺・下音羽は、「聖フランシスコ・ザビエル像」をはじめとするキリスト教遺物がまとまって発見された地として著名であり、高山右近の所領の時期にキリスト教信仰がもたらされたと考えられている。禁教令下の江戸時代を通じて密に受け継がれてきたため、その存在が明らかになるのは 20 世紀に入ってからである。本市で継続的に調査を進めてきた千提寺菱ヶ谷遺跡や新名神高速道路建設工事に伴う一連の発掘調査およびキリスト教遺物等の研究成果をもとに、この地のキリスト教信仰への理解がさらに進むことが期待される。

#### [引用文献]

木庭元晴 2012 「基盤地質」『新修茨木市史』 第一巻通史Ⅰ 茨木市

#### [参考文献]

茨木市史編さん委員会 2012 『新修 茨木市史』 第一巻通史Ⅰ 茨木市

茨木市史編さん委員会 2014 『新修 茨木市史』 第七巻史料編考古 茨木市

茨木市教育委員会 1998 『茨木の史跡』

茨木市教育委員会 2005 『郡遺跡発掘調査概要報告書』

公益財團法人大阪府文化財センター 2015 『千提寺西遺跡 日奈戸遺跡 千提寺市阪遺跡 千提寺クルス山遺跡』

## 第2章 令和元年度調査地一覧

※a～fは、平成31年1月～3月期（平成30年度）に実施したものである。

No.	遺跡名【略号】	調査地	調査期間	面積	担当者	内容
a	総持寺遺跡2018-4	西河原二丁目	2019/2/5	9m <sup>2</sup>	富田	遺構・遺物なし。
b	郡遺跡2018-5	上總積二丁目	2019/2/18	6m <sup>2</sup>	宮西・坂田	土師器片が出土。
c	東奈良遺跡2018-8	沢良宜西二丁目	2019/2/28	9m <sup>2</sup>	富田	遺構・遺物なし。
d	茨木遺跡2018-5	宮元町	2019/3/7	4.5m <sup>2</sup>	富田	土師器片が出土。
e	太田遺跡2018-3	太田二丁目	2019/3/25	6m <sup>2</sup>	宮西・木村・坂田	土坑1基を検出。土師器・須恵器・瓦器片が出土。
f	東奈良遺跡2018-9	沢良宜西二丁目	2019/3/26	4m <sup>2</sup>	木村	遺構・遺物なし。
1	中種積遺跡・三島街道 2019-1	中種積一丁目	2019/4/1	4m <sup>2</sup>	木村	遺構・遺物なし。
2	茨木遺跡2019-1	宮元町	2019/4/4	7.5m <sup>2</sup>	富田	遺構・遺物なし。
3	太田遺跡2019-1	太田二丁目	2019/4/8	6m <sup>2</sup>	宮西・木村	土坑1基を検出。
4	太田遺跡2019-2	太田二丁目	2019/4/8	6m <sup>2</sup>	宮西・木村	溝1条を検出。
5	太田遺跡2019-3	太田二丁目	2019/4/9	6m <sup>2</sup>	宮西・木村	溝1条・小穴4基を検出。土師器・須恵器・黒色土器・瓦・石製品が出土。
6	西国街道2019-1	東太田二丁目	2019/4/11	7.2m <sup>2</sup>	富田	溝2条・ピット1基を検出。土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・銭貨が出土。
7	五日市遺跡2019-1	耳原一丁目	2019/4/18	6.25m <sup>2</sup>	富田	遺構・遺物なし。
8	信賀遺跡2019-1	春日五丁目	2019/4/23	6m <sup>2</sup>	宮西・木村	土坑2基・小穴5基を検出。土師器・黒色土器が出土。
9	茨木遺跡2019-2	本町	2019/5/17	6m <sup>2</sup>	木村	瓦・陶器・瓦器が出土。
10	舟木遺跡2019-1	舟木町	2019/5/28	4m <sup>2</sup>	正岡	遺構・遺物なし。
11	中条小学校遺跡2019-3	西中条町	2019/6/6	6m <sup>2</sup>	宮西・木村	弥生土器が出土。
12	東奈良遺跡2019-1	東奈良二丁目	2019/7/4	4m <sup>2</sup>	正岡・宮西	溝1条を検出。弥生土器が出土。
13	春日遺跡2019-2	春日三丁目	2019/7/30	5m <sup>2</sup>	木村	小穴3基を検出。土師器・黒色土器が出土。
14	茨木遺跡2019-5	上泉町	2019/8/20	6m <sup>2</sup>	木村	遺構・遺物なし。
15	牛込遺跡2019-1	園田町	2019/8/22	6m <sup>2</sup>	木村	遺構・遺物なし。
16	東奈良遺跡2019-4	東奈良二丁目	2019/8/26	4m <sup>2</sup>	正岡	土坑2基・小穴1基を検出。
17	東奈良遺跡2019-5	東奈良二丁目	2019/8/27	4m <sup>2</sup>	正岡	小穴1基を検出。弥生土器が出土。
18	春日遺跡2019-5	上袖東町	2019/8/29	9m <sup>2</sup>	高村	溝1条・土坑2基・ピット7基を検出。土師器・須恵器が出土。
19	郡遺跡・三島街道 2019-2	郡四丁目	2019/9/25	7.5m <sup>2</sup>	富田	溝1条・落ち込み1・ピット4基を検出。土師器・須恵器・瓦質土器が出土。
20	三宅城跡2019-1	丑寅二丁目	2019/10/10	5m <sup>2</sup>	富田	遺構・遺物なし。
21	倍賀遺跡2019-3	春日四丁目	2019/10/24	7.5m <sup>2</sup>	富田	ピット2基を検出。土師器・須恵器が出土。
22	東奈良遺跡2019-6	東奈良二丁目	2019/10/31	6m <sup>2</sup>	木村	遺構・遺物なし。
23	東奈良遺跡2019-7	東奈良二丁目	2019/11/14	4m <sup>2</sup>	正岡	土坑2基・小穴1基を検出。弥生土器が出土。

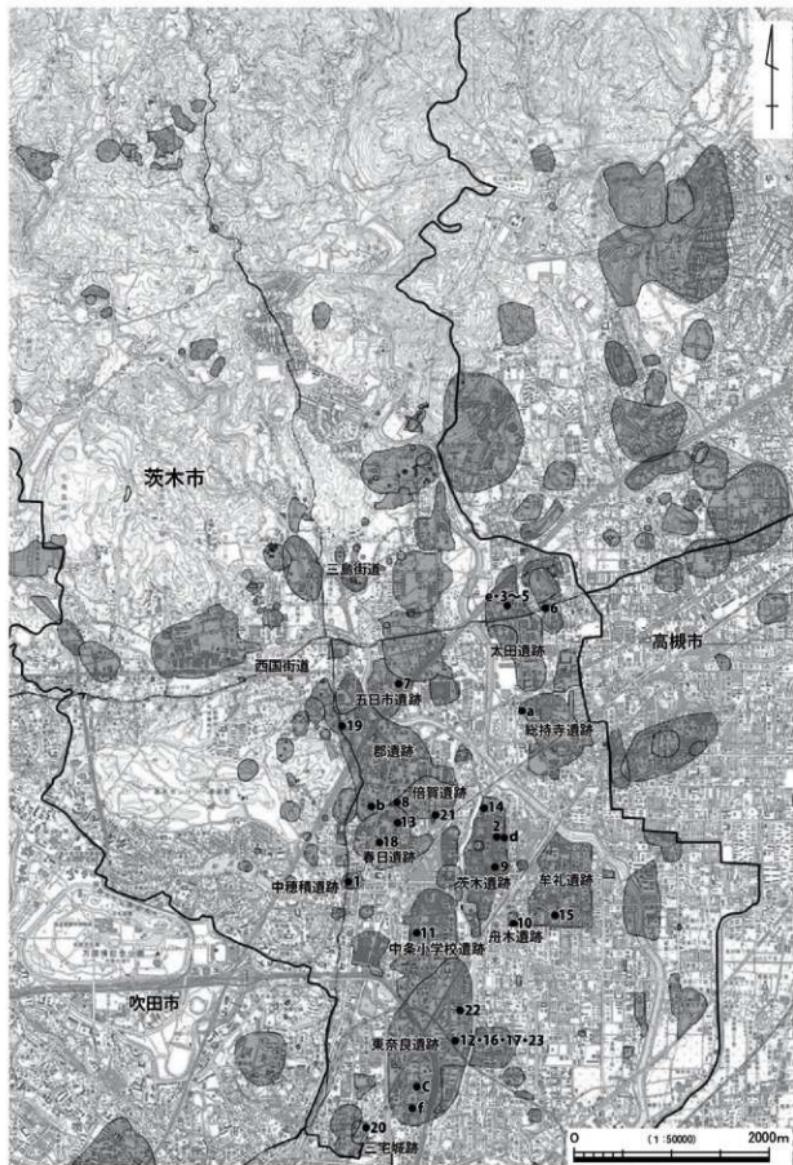


図2 令和元年度発掘調査地位置図（アルファベット・アラビア数字は前頁No.と対応する）

## 第3章 調査の成果

### 第1節 茨木遺跡

#### 1. 茨木遺跡 2018-5 (図3・4)

調査地 茨木市宮元町10番7、10番21の各一部

調査面積 4.5m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年3月7日

調査担当 富田卓見

はじめに 宮元町で計画された個人住宅の建築に伴い  $1.5 \times 3$ mの調査区を設定し調査を行った。なお、調査地の現況地盤は、東に接する道路面とほぼ同じ高さで、調査区内は概ね平坦である。

基本層序 基本層序は4層に大別でき、上層から0層：現代盛土層・擾乱土層（0-1a～0-3a層）、1層：耕作土層（1-1a～1-3a層）、2層：耕作土層（2-1a層）、3層：水成層（3-1b～3-5b層）の順に堆積している。調査区が狭小であったため、平面的な調査は実施できなかった。

遺構・遺物 GL-1.7mの範囲において遺構は認められなかった。遺物は1-2a層中より磨滅した土師器の細片が認められたが、混入資料の可能性が高く、当該層準の時期を示すものは疑問が残る。

まとめ 今回の調査は安全面を考慮し、確認可能だった範囲を記録するに留めた。したがって、調査区壁面上層断面による堆積状況の把握を主としたが、集落の詳細を示すような痕跡は認められなかった。

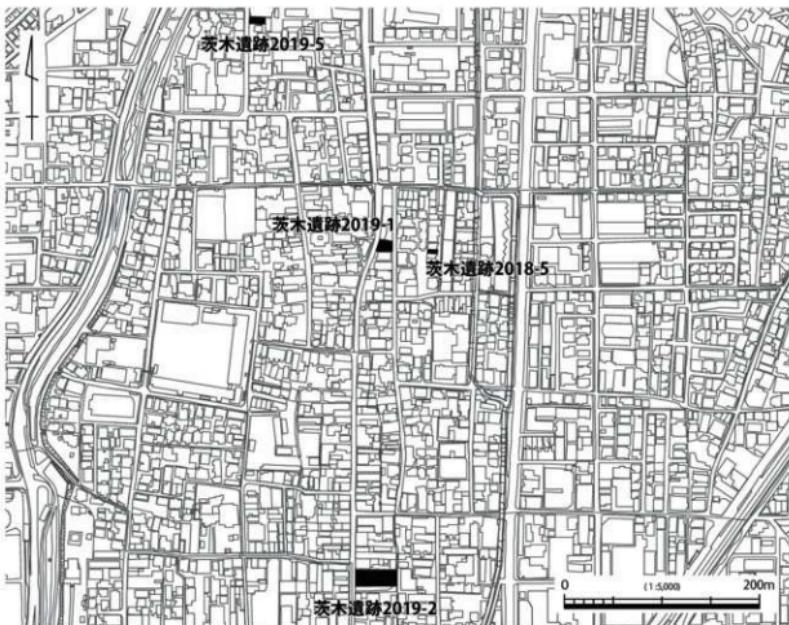
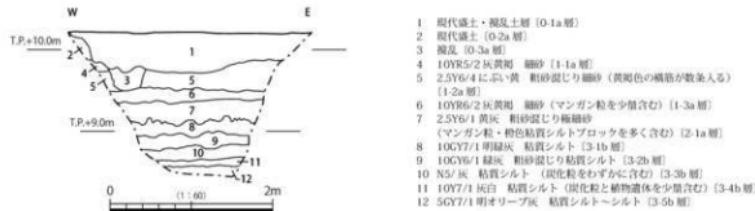


図3 茨木遺跡調査地位置図

### 第3章 調査の成果



### 2. 茨木遺跡 2019-1 (図3・5)

**調査地** 宮元町17番4の一部及び17番5

**調査期間** 平成31年4月4日

**調査面積** 7.5m<sup>2</sup>

**調査担当** 富田卓見

はじめに 宮元町において計画された個人住宅の建築に伴い、2.5 × 3 mの調査区を設定し調査を行った。なお、調査地の現況地盤は、西に接する道路面とほぼ同じ高さで、調査区内は概ね平坦である。

**基本層序** 基本層序は5層に大別でき、上層から0層：現代盛土層・攪乱土層(0-1a・0-2a層)、1層：耕作土層(1-1a～1-4a層)、2層：土壤層(2-1a層)、3層：水成層(3-1b～3-4b層)、4層：土壤層(4-1a層)の順に堆積が認められた。

**遺構・遺物** 遺構検出は2-1a層下面にて実施したが、遺構・遺物は認められなかった。

**まとめ** 今回の調査では、集落の詳細を示すような痕跡は認められなかった。



### 3. 茨木遺跡 2019-2 (図3・6・7)

**調査地** 本町14-20番1の一部及び14-20番2

の一部

**調査期間** 令和元年5月17日

**調査面積** 6m<sup>2</sup>

**調査担当** 木村健明

はじめに 本町で計画された住宅の建築に伴い、2 × 3 mの調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は西面する道路面とほぼ同じである。

**基本層序** 調査地の基本層序は、大別8層に区分でき、上層から0層：盛土層(0-1a層)、1層：黃灰色粘質シルト(1-1a層)、2層：灰黄色粗砂混じり粘質シルト(2-1a層)、3層：黃灰色粘質シルト(3-1a層)、4層：灰白色粗砂(4-1b層)、5層：灰色粘土(5-1a層)、6層：暗灰黄色～黃灰色粘質シルト(6-1a・6-2a層)、7層：灰色粘土～粗砂(7-1b・7-2b層)の順に堆積が認められた。

**遺構・遺物** 調査では、5-1a層上面で遺構検出を行ったが、遺構は確認することができなかった。図7には、6層中から出土した遺物を掲げた（1～5）。

まとめ 2-1a、3-1a、6-1a層から近世の瓦片が出土しており、近世以降に複数回敷地内の整地が行われたことが分かる。6-2a層から出土した瓦器楕（5）には磨滅がほぼ認められることから、近辺に当該期の遺構が存在することも考えられる。



図6 断面柱状図（茨木遺跡 2019-2）

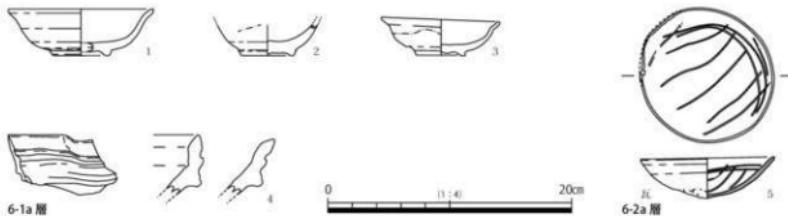


図7 出土遺物（茨木遺跡 2019-2）

#### 4. 茨木遺跡 2019-5（図3・8）

調査地 上泉町1176番2

調査期間 令和元年8月20日

はじめに 上泉町において計画された個人住宅の建築に伴い、 $2 \times 3$ mの調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は西面する道路面からわずかに高くなっている。

基本層序 基本層序は、上層から1層：盛土・擁乱層、2層：灰色粗砂、3層：灰色粗砂混じり粘土、4層：灰色粗砂混じり粘土、5層：灰白色粘土、6層：灰黄色粗砂の順に堆積が認められた。

**遺構・遺物** 3層上面で遺構検出を行った。その結果、円形を呈する土坑状の輪郭を確認したが、2層を切り込んでいることを壁面で確認したため、新しい時期のものと判断できる。また、3層と4層は3層がより砂質が強いことを除けばほとんど差は認められない。また、3層・4層ともに帯状の鉄分が細かく認められ、緩やかな堆積環境であった可能性がある。

まとめ 今回の調査では明瞭な遺構面を確認することはできなかった。

調査面積 6m<sup>2</sup>

調査担当 木村健明



図8 断面柱状図（茨木遺跡 2019-5）

## 第2節 郡遺跡・倍賀遺跡・春日遺跡・中穂積遺跡・三島街道

### 1. 郡遺跡 2018-5 (図9・12・13)



はじめに 上穂積二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、 $2 \times 3$ mの調査区を建設予定地内に設定して調査を行った。なお、調査地の現況地盤は南面する道路面とほぼ同じである。

**基本層序** 基本層序は大別して4層に区分でき、上層から0層：現代盛土層（0-1a・0-2a層）、1層：近現代耕作土層（1-1a・1-2a層）、2層：近現代掘り込み埋土（2-1a層）、3層：ベース土層の順に堆積が認められた。

**遺構・遺物** 遺構の検出を期して、2層の下面において平面的な精査を試みたが、大半は近現代の掘り込みによる搅乱を受けており、遺構は認められなかった。遺物は、0層中から土師器片が1片出土したが、細片のため帰属時期は不明であるほか、図示し得なかった。

**まとめ** 今回の調査では、遺構を確認することはできなかった。

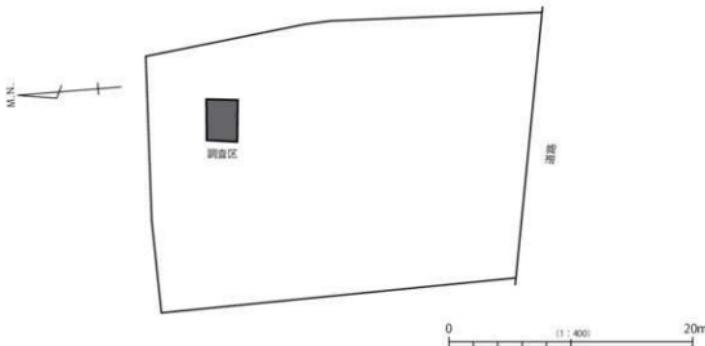


図12 調査区配置図（郡遺跡 2018-5）

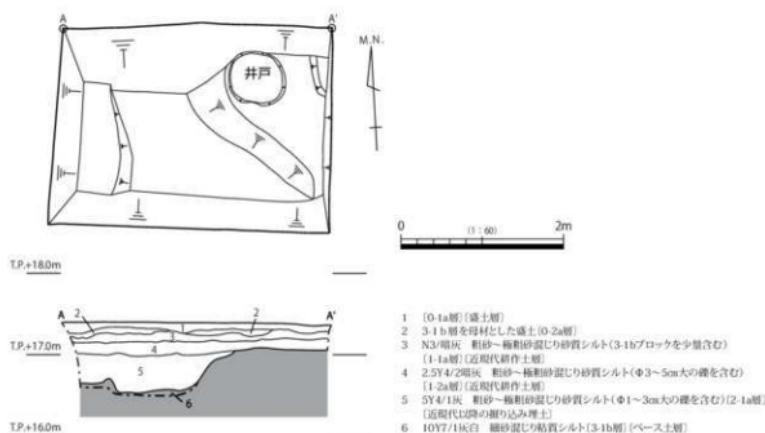


図13 平・断面図（郡遺跡 2018-5）

## 2. 中穂積遺跡・三島街道 2019-1 (図 10・14)

調査地 中穂積一丁目62番3の一部及び62番

4の一部

調査期間 平成31年4月1日

はじめに 中穂積一丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、 $2 \times 2$  mの調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は北面する道路面とほぼ同じである。

**基本層序** 調査地の基本層序は大別6層に区分でき、上層から0層:盛土層(0-1a層)、1層:灰色～明黄褐色粗砂混じり粘質シルト(1-1a・1-2a層)、2層:灰白色粗砂(2-1b層)、3層:灰黄色～黃灰色粘土(3-1a・3-2a層)、4層:灰白色粘土(4-1b層)、5層:にぶい黄橙色粘土(5-1b層)の順に堆積が認められた。

**遺構・遺物** 3-2a層下面及び5-1b層上面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物といった埋蔵文化財は確認することはできなかった。

まとめ 今回の調査地の近隣では平成29年度に北西に40m離れた地点で調査を行っているが(中穂積遺跡・三島街道2017-1)、現況GL-1.2mで遺構を検出している。層相の比較から、当該調査で確認できた遺構検出面は、今次調査で確認した4-1b層相当の可能性が高い。今回の調査では、遺構は確認できなかったが、周辺の調査成果を総合して遺構分布状況を検討する必要がある。

## 3. 倍賀遺跡 2019-1 (図9・15・16)

調査地 春日五丁目42-4

調査期間 平成31年4月23日

はじめに 春日五丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、 $3 \times 2$  mの調査区を1箇所設定して調査を行った。調査地の現況地盤は概ね平坦であり、西面する道路面とほぼ同じである。

**基本層序** 基本層序は、図16のとおり、以下の大別5層に区分でき、上層から0層:盛土・撲乱(0-1a層)、1層:現代耕作土層(1-1a層)、2層:中～近世耕作土層(2-1a層)、3層:遺物包含層(3-1a層)、4層:ベース土層(4-1b層)の順に堆積が認められた。

**遺構・遺物** 平面的な調査は、3層下面において実施した。結果、小穴を5基、土坑を2基検出している。遺物は、遺物包含層および遺構埋土から、土師器片、黒色土器片が出土した。細片が中心であるが、図示可能なものを図16に示した(6～8)。

まとめ 今次調査で得られた層序は、同一造成地である北側3区画での調査(倍賀遺跡2017-4、倍



図14 断面柱状図  
(中穂積遺跡・三島街道2019-1)

調査面積 6m<sup>2</sup>  
調査担当 宮西貴史・木村健明

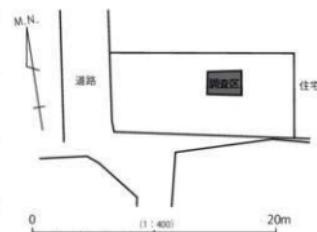


図15 調査区配置図(倍賀遺跡2019-1)

賀遺跡 2017-5、倍賀遺跡 2018-2)で得られた層序とほぼ同じであり、同時代の遺構が本調査地まで続いていることが確認できた。周辺においても、遺構・遺物が良好な状態で残存していることが想定される。

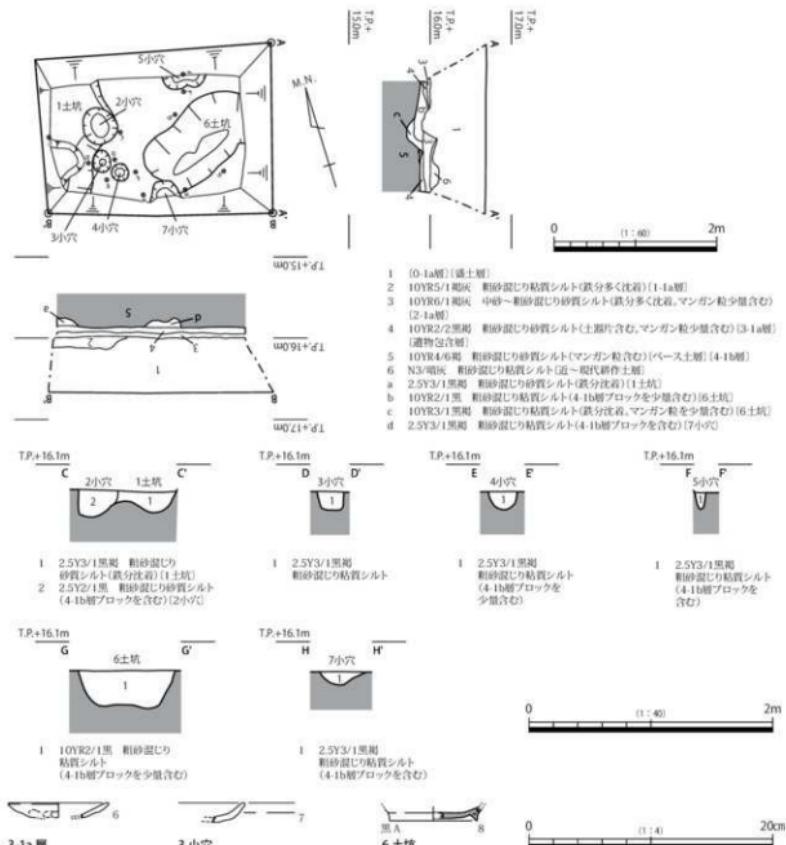


図 16 平・断面図・出土遺物（倍賀遺跡 2019-1）

#### 4. 春日遺跡 2019-2 (図 9・17・18 図版 1)

調査地 春日三丁目106番13、106番14の一部

調査面積 5m<sup>2</sup>

調査期間 令和元年7月30日

調査担当 木村健明

はじめに 春日三丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、建築予定地内に 2 × 2.5 m の調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は東面する道路面とほぼ同じである。

基本層序 基本層序は大別3層を確認し、上層から0層：盛土・攘乱層(0-1a層)、1層：黒褐色粘

### 第3章 調査の成果

質シルト（1-1a層・遺物包含層）、2層：明黄褐色～暗灰黄色粘土（2-1b～2-3b層・ベース層）の順に堆積が認められた。

**遺構・遺物** 調査にあたっては、遺物包含層である1層を除去した1-1a層下面において遺構の検出を行い、結果として小穴3基を検出した。遺構からは遺物の出土は認められなかったが、1-1a層から黒色土器・土師器が出土している。なお、いずれも細片のため、図示し得なかった。

**まとめ** 周辺は極浅い深度に遺構面が存在することが明らかとなっている。今回の調査において既往の調査成果を追認する結果となった。

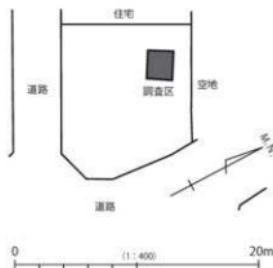


図17 調査区配置図

(春日遺跡 2019-2)

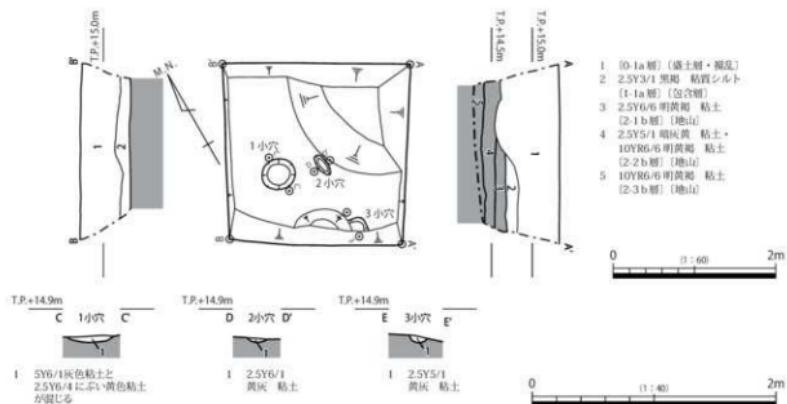


図18 平・断面図 (春日遺跡 2019-2)

### 5. 春日遺跡 2019-5 (図9・19・20 図版2)

調査地 上穂東町134番2

調査面積 9m<sup>2</sup>

調査期間 令和元年8月29日

調査担当 高村勇士

はじめに 上穂東町において計画された個人住宅の建築に伴い、3×3mの調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は、北面及び東面する道路面とほぼ同じである。

**基本層序** 基本層序は大別して3層を確認しており、上層から0層：盛土層〔0-1a層〕、1層：近現代耕作土層〔1-1a層〕、2層：沖積段丘構成層〔2-2b層〕とそれを母材とした土壤層〔2-1a層〕から構成されている。なお、土壤層である2-1a層にはわずかに土器の細片が混じることを確認した。

**遺構・遺物** 遺構は2-1a層下面で検出した。1土坑は、調査区南東角で検出したため、全体のプランは不明である。2ピットは、直径20cm程度の円形でありながら、検出面よりの深さは48cmを測り、土師器片や同心円状の當て具痕が確認できる須恵器の細片など、わずかに土器が出土している。3ピッ

トから10ピットまでは、検出面より4cmから13cm程度と比較的浅く、遺物も出土していない。また、埋土もほぼ同様であり、全体の平面形状や所属時期は不明である。ただし、8土坑は6ピットと重複しており、今回確認した遺構には一定の時期差があることが想定される。

まとめ 今次調査によって、当該地に埋蔵文化財が遺存することは確認できたが、その所属時期や性格については判然としない。春日遺跡の中でも南西部は古墳等の遺構、北部には古代の遺構等がまとまりを持ち確認されているが、中央から南東部は遺構や遺物は確認されていないがらもやや散漫であり不明な部分が多い。今後の検討を要する。

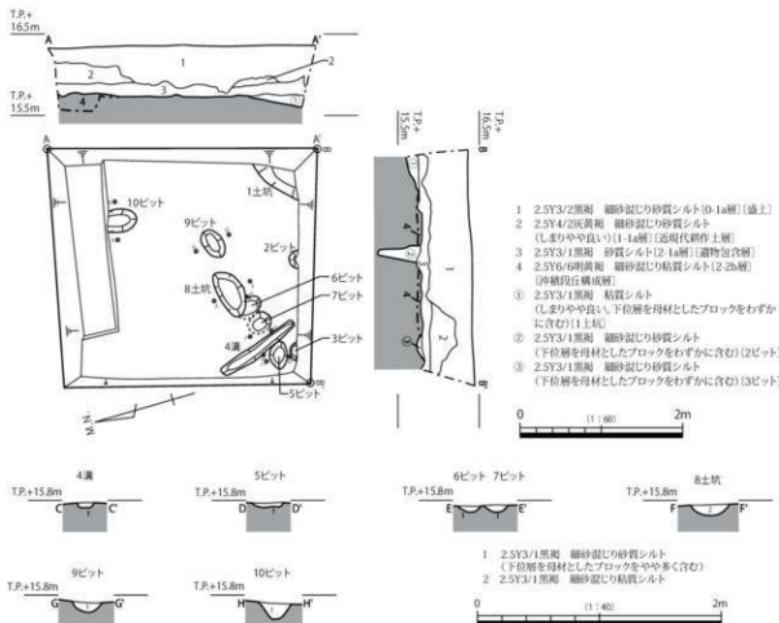


図20 平・断面図（春日遺跡 2019-5）

## 6. 郡遺跡・三島街道 2019-2 (図11・21・22 図版3)

**調査地** 郡四丁目669番2の一部、676番の一部

**調査面積** 7.5m<sup>2</sup>

**調査期間** 令和元年9月25日

**調査担当** 富田卓見

はじめに 郡四丁目で計画された個人住宅の建築に伴い、2.5×3mの調査区を設定し調査を行った。なお、調査地の現況地盤は西面する道路面とほぼ同じで、調査区内は概ね平坦である。

**基本層序** 基本層序は3層に大別でき、上層より0層：盛土・擾乱土層(0-1a層)、1層：耕作土層(1-1a層)、2層：地山層(2-1b層)の順に堆積が認められた。なお、当該地周辺における既往の調査で確認されている暗褐色の土壤層は、今次調査では認められなかった。後世の土地造成時に削平されたと思われる。

**遺構・遺物** 1層の下面において遺構検出を行い、ピット4基、溝1条、落ち込み1をそれぞれ確認した。検出した4基のピットは、土層断面観察で柱痕が認められず、また調査区が狭小であったため、建物に伴うものであるかは不明である。1溝は、幅0.15m、長さ1.8m以上、深さ0.05mを測り、南北方向に之びる。埋土中からは近世の陶磁器片が認められたため、近世以降の耕作溝と考えられる。4落ち込みは、調査区の北東から南東にかけて検出した。検出プランは北辺で弧状を呈しており、幅0.6m以上、長さ約1.3m以上、深さ0.5mを測る。遺構埋土は上下の2層に分層でき、上層からは土師器皿(9)や須恵器の細片が、下層からは瓦質土器の細片(10)が出土した。

まとめ 今回の調査では、ピットや落ち込みを確認した。ピットについては、埋土から遺物が認められず詳細な時期は不明だが、2・3ピットは、平面プランや埋土の状況から中世まで遡るかもしれない。4落ち込みは、大きな溝の一部である可能性も考えられるが、今次調査範囲内では対となる南辺を確認することができなかった。時期については、出土した土器から中世に帰属するものと考えられる。

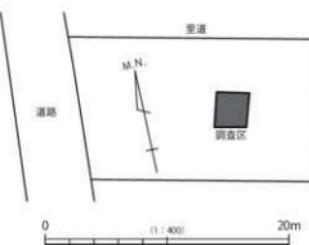


図21 調査区配置図

(郡遺跡・三島街道 2019-2)

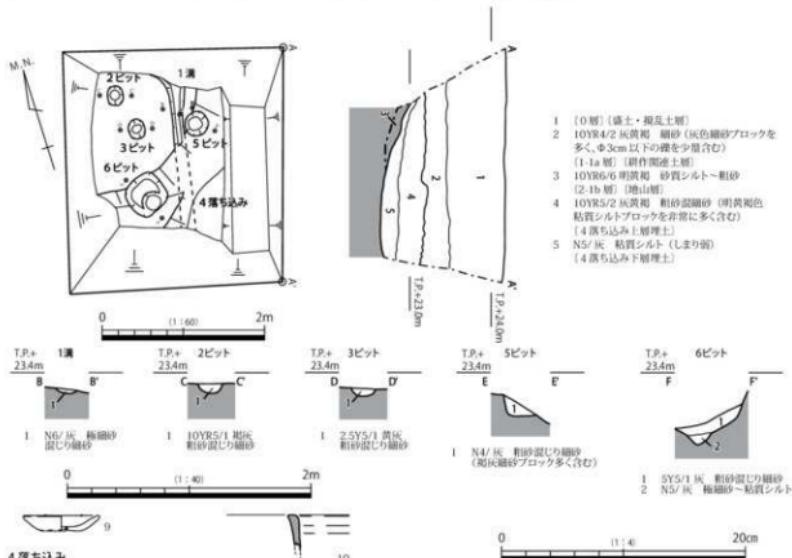


図22 平・断面図・出土遺物 (郡遺跡・三島街道 2019-2)

## 7. 倍賀遺跡 2019-3 (図9・23・24 図版4)

調査地 春日四丁目317番2、317番7

調査期間 令和元年10月24日

はじめに 春日四丁目で計画された個人住宅の建築に伴い、 $2.5 \times 3$ mの調査区を設定し調査を行った。なお、調査地の現況地盤は南に接する道路面から0.15mほど低く、調査区内は概ね平坦である。

基本層序 基本層序は、大きく4層に大別できる。上層より0層：盛土・搅乱土層、1層：耕作土層(1-1a・1-2a層)、2層：土壤層(2-1a・2-2a層)、3層：地山層の順で堆積を確認した。2-2a層中からは土師器・須恵器が出土しており(11・12)、当該層準は古墳時代後期～古代の遺物包含層と考えられる。

遺構・遺物 2-2a層の下面において、平面的な調査を行い、ピット2基を検出した。

1ピットは、径0.35m前後、深さ0.25mを測る。細片のため図示し得なかったが、遺構内より土師器片が認められており、古代に帰属するものと考えられる。2ピットは、長軸0.48m、短軸0.25m、深さ0.13m前後を測る。

まとめ 今回の調査では、狭小な面積ながらもピット2基を検出するに至った。また、2層としたいわゆる遺物包含層が良好に遺存することに加え、その下面において遺構が良好な状態で遺存していることを確認した。断片的な成果ではあるが、重要な知見を加えることができた。

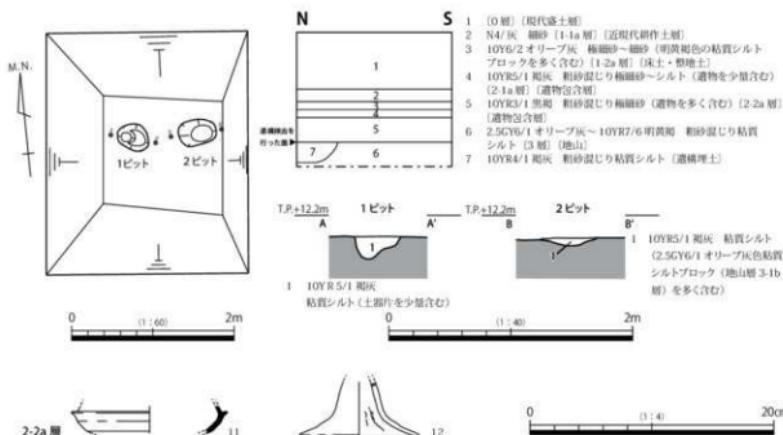


図23 調査区配置図（倍賀遺跡 2019-3）

### 第3節 東奈良遺跡・中条小学校遺跡

#### 1. 東奈良遺跡 2018-8 (図 25・26)

調査地 沢良宜西二丁目339番2の一部

調査期間 平成31年2月28日

調査面積 9m<sup>2</sup>

調査担当 富田卓見

はじめに 沢良宜西二丁目で計画された個人住宅の建築に伴い3×3 mの調査区を設定し、調査を行った。なお、調査地の現況地盤は、建物建築予定部分に盛土造成がなされており、北に接する道路面よりも約0.9 m高い。

基本層序 基本層序は4層に大別でき、上層から0層：現代盛土、1層：耕作土層（1-1a～1-3a層）、2層：水成層の可能性のある層準（2-1b層）、3層：水成層（3-1b・3-2b層）の順に堆積を確認した。

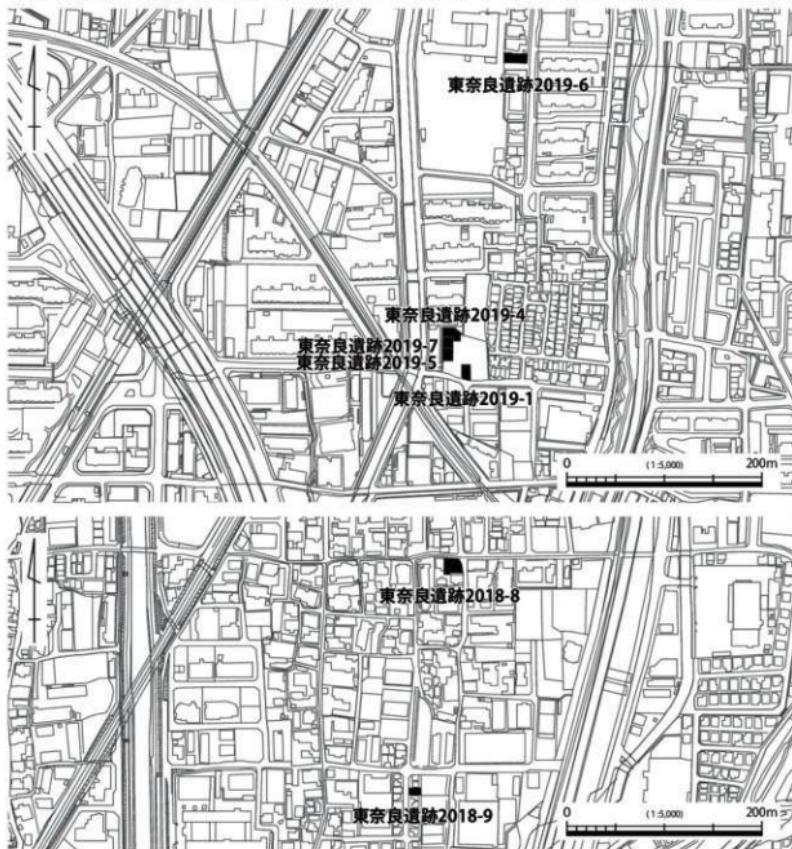


図 25 東奈良遺跡調査地位図

各層準において遺物は認められなかった。

**遺構・遺物 土壌層の可能性のある2-1b層の下面において平面的な調査を行ったが、GL-2.1mの範囲において、埋蔵文化財は認められなかった。**

**まとめ** 今次調査では、集落の詳細を示すような遺構・遺物は認められなかった。

さらに下層の様相については、湧水のため確認することはできなかった。

## 2. 東奈良遺跡 2018-9 (図 25・27・28)

**調査地** 沢良宜西二丁目320-4

**調査期間** 平成31年3月26日

はじめに、沢良宜西二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、 $2 \times 2$ mの調査区を設定して調査を実施した。なお、調査地の現況地盤は、西面する道路面とほぼ同じである。

**基本層序** 調査地の基本層序は、大別5層に区分でき、上層から0層：盛土層(0-1a層)、1層：(1-1a層)、2層：耕作土層(2-1a層)、3層：灰色粗砂～粘質シルト(3-1b・3-2b層)、4層：明オリーブ灰色～灰色粗砂混じり粘質シルト(4-1b・4-2b層)の順に堆積を確認した。

**遺構・遺物** 2-1a層以下は、粗砂が主体の水成堆積層であり、遺構・遺物といった埋蔵文化財は確認できなかった。

また、2-1a層上に盛土とは異なる砂と粘質シルトが混じった層の堆積を確認した。住宅地造成の前に砂層が堆積する環境であったことが窺われる。

**まとめ** 周辺では確認調査が複数回行われているが、これまでに遺構・遺物は確認されておらず、低湿な環境であったと考えられる。

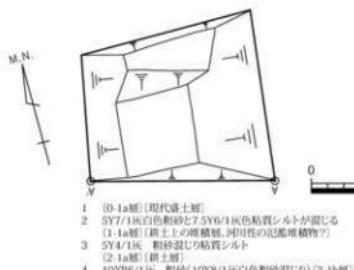


図 28 平・断面図 (東奈良遺跡 2018-9)

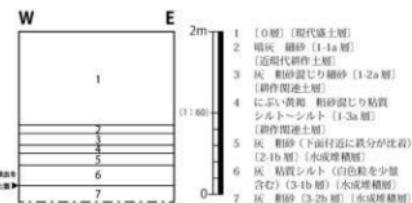


図 26 断面柱状図 (東奈良遺跡 2018-8)

**調査面積** 4m<sup>2</sup>  
**調査担当** 木村健明

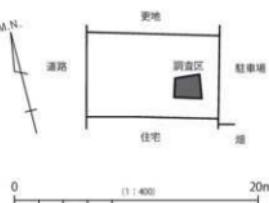


図 27 調査区配置図

(東奈良遺跡 2018-9)

## 3. 東奈良遺跡 2019-1 (図 25・29・30 図版5)

調査地 東奈良二丁目750-31

調査期間 令和元年7月4日

はじめに 東奈良二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、 $2 \times 2$ mの調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は西面する道路面より約 0.1m 高い。

**基本層序** 基本層序は、大別7層、細別12層に区分でき、上層から0層：盛土・現代耕作土層（0-1a・0-2a層）、1層：中～近世に形成されたと目される耕作土層（1-1a～1-3a層）、2層：中世に堆積した可能性のある水成層及び耕作土層（2-1a・2-2b層）、3層：中世以前に形成された可能性のある水成層（3-1b層）、4層：中世以前に形成された可能性のある耕作土層（4-1ab・4-2ab層）、5層：弥生時代中～後期に形成された土壌層（5-1a層）、6層：弥生時代以前に形成された水成層（6-1b層）の順に堆積が認められた。いずれの層準についても本宅地造成地の道路敷設に伴い 2018 年度に行った東奈良遺跡 2018-5 の調査内容に準ずることを確認している。

**遺構・遺物** 調査では既往の調査成果を鑑み、4-2ab 層の下面を1面、5-1a 層の下面を2面として合計2面において平面的な調査を実施した。結果として1面では遺構・遺物は確認できなかったが、2面において調査区北西隅を北東～南西方向に直線的に延びる溝状構造（1溝）を確認するにいたっている。1溝の断面形状は緩やかで、溝内からは、木製構造物と考えられる木材が出土した。

**まとめ** 溝内からは土器が出土していないため詳細な帰属時期は明らかではないが、5-1a 層中か

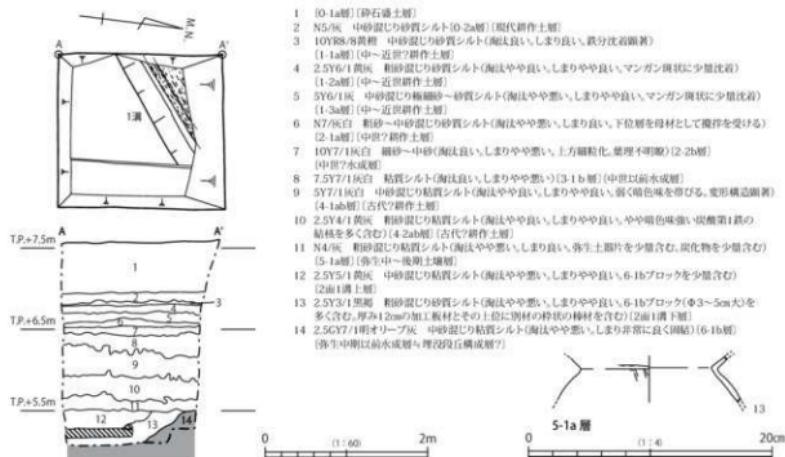


図 30 平・断面図・出土遺物 (東奈良遺跡 2019-1)

ら弥生時代後期の甕（13）が出土していることや埋土の観察から、この溝状遺構は弥生時代後期以前に人为的に掘削されたものと考えられる。なお、この溝状遺構からは厚み 12cm 前後の面取りを施された板材の直上に、辺材を棒状に加工したとみられる木製部材があたかも組み合うかのような状態で出土した。この部材は今回の調査では部分的な検出に留まったため、取り上げることができず残念ながら今回の調査ではその詳細を明らかにすることはできなかった。

1 溝の評価には周辺の成果を加味した上で慎重な判断をする。いずれにせよ、東奈良遺跡 2018-5 で検出した溝の多くは今回確認できた 1 溝と同様の北東一南西方向に延びるものであったことも含めて考えると、重要な知見を加えることができたものと言えよう。

#### 4. 東奈良遺跡 2019-4（図 25・29・31 図版 6）

調査地 東奈良二丁目750-28

調査面積 4m<sup>2</sup>

調査期間 令和元年8月26日

調査担当 正岡大実

はじめに 東奈良二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、2 × 2 m の調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は南面する道路面より約 0.1 m 高い。

基本層序 基本層序は、先に述べた東奈良遺跡 2019-1 同様、大別 7 層、細別 12 層を確認した。いずれの層準についても本宅地造成地の道路敷設に伴い 2018 年度に行った東奈良遺跡 2018-5 及び同造成地内で実施した東奈良遺跡 2019-1 の調査内容に準ずる。

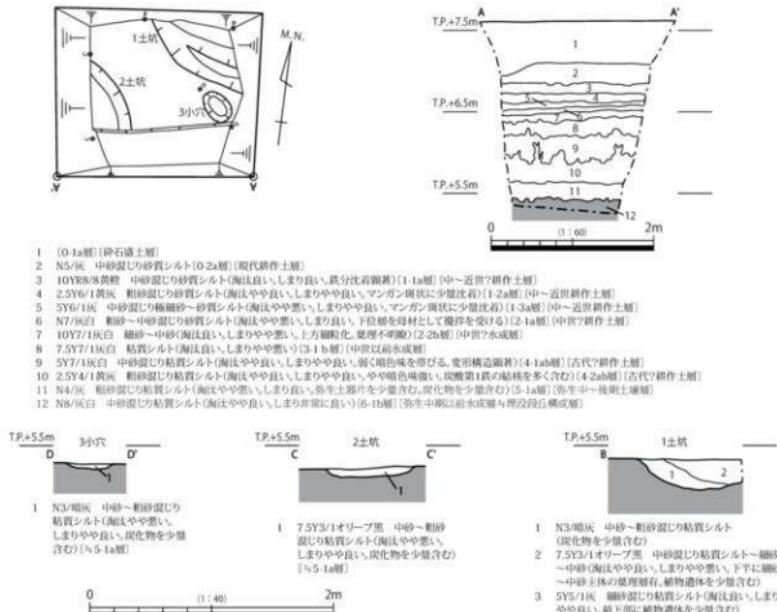


図 31 平・断面図（東奈良遺跡 2019-4）

**遺構・遺物** 調査では東奈良遺跡 2018-5 及び東奈良遺跡 2019-1 の調査成果を鑑み、5-1a 層の下面を 1 面として平面的な調査を実施した。結果として土坑 2・小穴 1 基を確認した。

遺構からは土器が出土していないため詳細な帰属時期は明らかではないが、上記隣接地の調査成果や埋土の観察から、これらの遺構は弥生時代後期以前に帰属するものと考えられる。

まとめ 今次調査地は同造成地内の北端部に位置している。東奈良遺跡 2018-5 で確認した地層の堆積相が当該地まで延長していることを確認できたという点で、重要な知見を加えることができた。

## 5. 東奈良遺跡 2019-5 (図 25・29・32)

**調査地** 東奈良二丁目750-26

**調査期間** 令和元年8月27日

**調査面積** 4m<sup>2</sup>

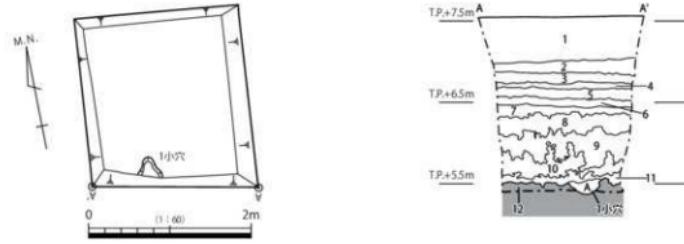
**調査担当** 正岡大実

はじめに 東奈良二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、2 × 2 m の調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は東面する道路面より約 0.1 m 高い。

**基本層序** 基本層序は、以下のとおり大別 7 層、細別 12 層を確認した。いずれの層準についても本宅地造成地の道路敷設に伴い 2018 年度に行った東奈良遺跡 2018-5 及び同造成地内で実施した東奈良遺跡 2019-1・2019-4 の調査内容に準ずることを確認している。

**遺構・遺物** 調査では東奈良遺跡 2018-5 及び東奈良遺跡 2019-1・2019-4 の調査成果を鑑み、5-1a 層の下面を 1 面として平面的な調査を実施し、結果として小穴 1 基を確認した。また、5-1a 層中からは弥生土器高杯(脚部) (14) が出土している。弥生時代後期の所産と考えられる。

まとめ 遺構からは土器が出土していないため詳細な帰属時期は明らかではないが、上記隣接地の調査成果や埋土の観察から、これらの遺構は弥生時代後期以前に帰属するものと考えられる。



- 1 [0-1a層] [砂石盛土層]
- 2 N5/6c 中砂混じり粘質シルト(0-2a層) [現代耕作土層]
- 3 10YR8/6 黄灰・利筋混じりの粘質シルト(海法やや良い・しまりやや良い・マング・現状少少混在)(1-2a層) [中~近世耕作土層]
- 4 2.5Y6/1 黄灰・利筋混じりの粘質シルト(海法やや良い・しまりやや良い・マング・現状少少混在)(1-2a層) [中~近世耕作土層]
- 5 5Y6/1(1c) 中砂混じり極細砂・砂質シルト(海法やや悪い・しまりやや良い・マング・現状少少混在)(1-2a層) [中~近世耕作土層]
- 6 N7/6(1c) 粘砂・中砂混じり粘質シルト(海法やや悪い・しまりやや良い・マング・現状少少混在)(1-2a層) [中世?耕作土層]
- 7 10Y7/1(1c) 砂層・中砂(海法良い・しまりやや悪い・上方粗粒化・整理不明確)(2-2b層) [中世?水成層]
- 8 7.5Y7/1(1c) 粘質シルト(海法良い・しまりやや良い)(3-1b層) [中世以前水成層]
- 9 5Y7/1(1c) 中砂混じり粘質シルト(海法やや良い・しまりやや良い・弱く暗色味を帯びる・形成構造顕著)(4-1ab層) [古代?耕作土層]
- 10 2.5Y4/1 黄灰・利筋混じり粘質シルト(海法やや良い・しまりやや良い・やや暗色濃強・現層第1段の粘性を多く含む)(4-2ab層) [古代?耕作土層]
- 11 N4/4 黄砂混じり粘質シルト(海法やや悪い・しまり良い・土器器形を少少含む・灰化物を少少含む)(5-1a層) [弥生中~後期土壌層]
- 12 2.5GY7/1(明オリーブ) 黄砂混じり粘質シルト(海法やや悪い・しまり非常に良い・生痕顕著)(6-1b層) [弥生中期以前水成層と埋没段丘構成層?]
- A 2.5SY5/1 黄灰・粗粒・極粗粒混じり粘質シルト(海法やや悪い・しまりやや良い・粘性強い・側方中心に6-1b層起源の偽縫隙を少少含む)(1-2a層)



図 32 平・断面図・出土遺物 (東奈良遺跡 2019-5)

## 6. 東奈良遺跡 2019-7 (図 25・29・33 図版 7・8)

調査地 東奈良二丁目750

調査期間 令和元年11月14日

調査面積 4m<sup>2</sup>

調査担当 正岡大実

はじめに 東奈良二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、 $2 \times 2$ mの調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は東面する道路面より約0.1m高い。

基本層序 基本層序は、以下のとおり大別7層、細別12層を確認した。いずれの層準についても本宅地造成地の道路敷設に伴い2018年度に行った東奈良遺跡2018-5及び同造成地内で実施した東奈良遺跡2019-1・2019-4・2019-5の調査内容に準することを確認している。

遺構・遺物 調査では東奈良遺跡2018-5及び東奈良遺跡2019-1・2019-4・2019-5の調査成果を鑑み、5-1a層の下面を1面として平面的な調査を実施し、結果として小穴1・土坑2基をそれぞれ確認した。また、5-1a層中からは弥生時代の土器が出土し、図示可能なものを図33に掲げた。15は壺、16は壺の底部である。壺の口縁部は短く立ち上がり、外面にはハケが施される。16は外面に密にヘラミガキが施され、内面はハケが施される。弥生時代中期～後期の所産であろうか。

まとめ 遺構からは弥生土器が出土したが、細片のため詳細な帰属時期は明らかではない。しかしながら、上記隣接地の調査成果や埋土の観察から、これらの遺構は弥生時代後期以前に帰属するものと考えられる。

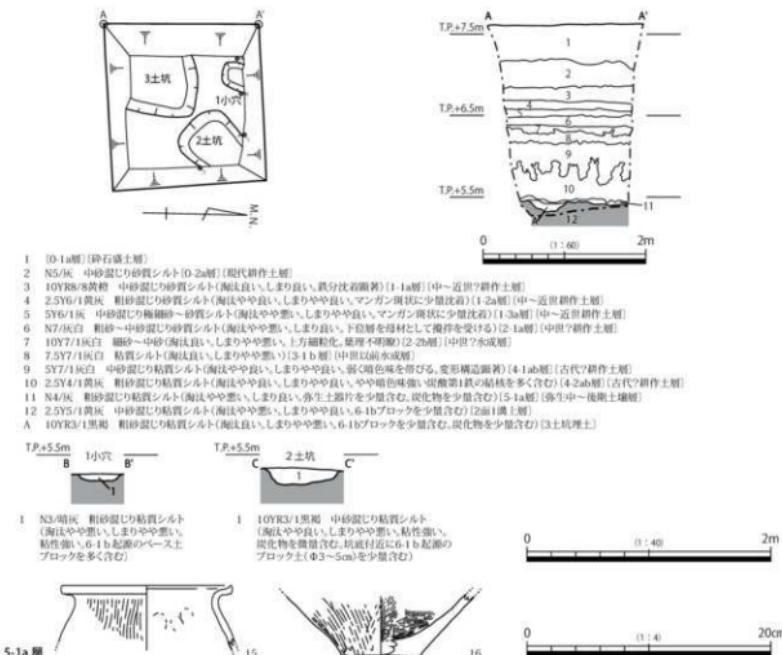


図33 平・断面図・出土遺物（東奈良遺跡 2019-7）

## 7. 東奈良遺跡 2019-6 (図 25・34)

調査地 東奈良二丁目713-2、857-9の一部

調査期間 令和元年10月31日

調査面積 6m<sup>2</sup>

調査担当 木村健明

はじめに 東奈良二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、 $2 \times 3$ mの調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は東面する道路面から0.5m程度高くなっている。

**基本層序** 調査地の基本層序は大別7層に区分でき、上層から、0層：盛土層(0-1a層)、1層：灰色粗砂混じり粘土(1-1a層)、2層：灰白色微砂混じり粘質シルト～灰色粘質シルト(2-1a・2-2a層)、3層：灰黄色粗砂(3-1b層)、4層：青灰色粗砂混じり粘質シルト(4-1b層)、5層：浅黄色粗砂(5-1b層)、6層：明青灰色粘土(6-1b層)の順に地層が堆積している状況を確認した。

**遺構・遺物** 3-1b層以下は、水を多く含む粗砂と粘土層が互層となっており、砂層が掘削に伴って激しく崩壊する状況下にあった。

安全上の観点から現況地盤から-2.2mの深度において調査をとどめざるを得ず、確認できた範囲の深度においては、遺構・遺物といった埋蔵文化財は確認できなかった。

まとめ 今回の調査地は東側で府営住宅建設に伴う大阪府教育委員会による調査(1988～1989年度)、西側で東奈良小学校建設に伴う調査(1981年度)が行われている。両調査区では弥生時代の方形周溝墓が検出されており、今回の調査地でも存在することが想定された。

しかし、上述したように今回は調査環境の限界から、遺構・遺物の確認にはいたっていない。先に述べた弥生時代の遺構はより深い深度に存在している可能性があるが、今回の調査では詳細は不明とせざるを得ない。周辺の調査事例の追加を俟って慎重に検討を加える必要があろう。

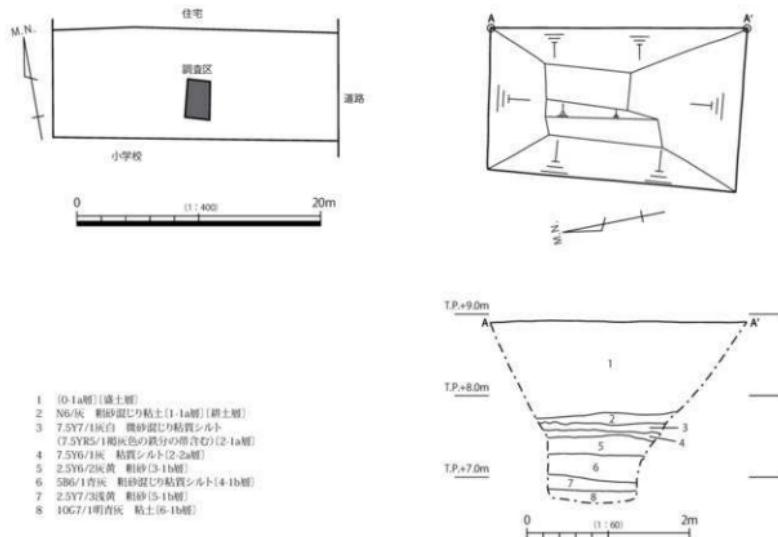


図 34 平・断面図 (東奈良遺跡 2019-6)

## 8. 中条小学校遺跡 2019-3 (図35・36)

調査地 西中条町12-19

調査期間 令和元年6月6日

調査面積 6m<sup>2</sup>

調査担当 宮西貴史・木村健明

はじめに 西中条町において計画された個人住宅の建築に伴い、 $3 \times 2$ mの調査区を設定して調査を行った。調査地は、南面する道路から延びる通路の奥に東西に敷地が広がる旗竿地である。調査地の現況地盤は、南面する道路面とほぼ同じであり、敷地内は概ね平坦である。

**基本層序** 基本層序は、大別6層を確認し、上層から順に0層：盛土層(0-1a層)、1層：近・現代耕作土層(1-1a層)、2層：水成層(2-1b層)、3層：中世に帰属する可能性のある耕作土層(3-1a層)、4層：土壤層(4-1a層)、5層：水成層(5-1b・5-2b層)の順に堆積を確認した。

**遺構・遺物** 調査の結果、3-1a層の下面及び4-1a層下面の合計2面において平面的な調査を試みたが、遺構は検出できなかった。遺物は、4-1a層中から弥生土器が少量出土した。細片が中心で図示可能なものは少ないが、弥生土器の底部片(17)から4-1a層は弥生時代後期以前に形成された層準の可能性がある。

まとめ 今回の調査では遺構・遺物を確認することはできなかった。

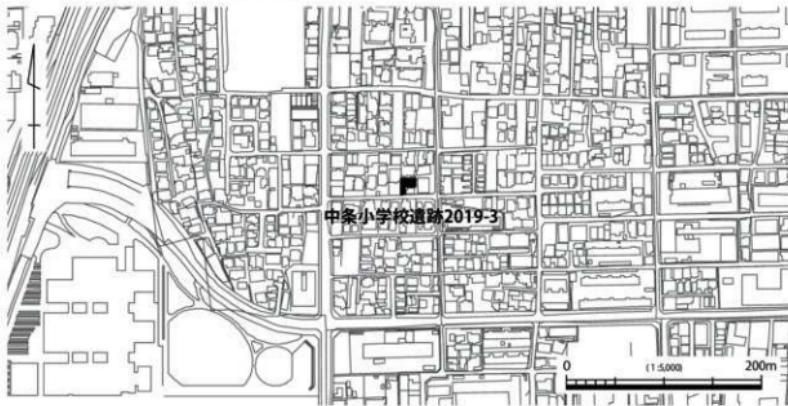


図35 中条小学校遺跡調査地位置図

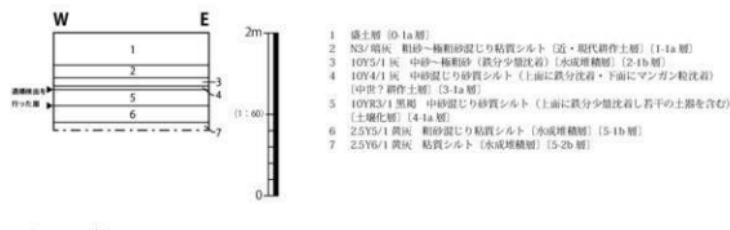


図36 断面柱状図・出土遺物（中条小学校遺跡 2019-3）

## 第4節 太田遺跡・西国街道・総持寺遺跡

### 1. 太田遺跡 2018-3 (図37～39)

調査地 太田二丁目6-10

調査期間 平成31年3月25日

調査面積 6m<sup>2</sup>

調査担当 宮西貴史・木村健明・坂田典彦



図37 太田遺跡・西国街道調査地位置図

はじめに 太田二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、3×2 mの調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は概ね平坦であり、南面する道路面とほぼ同じ高さである。なお、本調査地は宅地造成工事に先立ち道路敷設部分において太田遺跡2018-1として平成30年度に発掘調査を実施している。

**基本層序** 基本層序は、上層から0層：盛土層、1層：現代耕作土層、2層：中～近世耕作土層、3層：中～近世耕作土層、4層：ベース土層の順に堆積を確認した。

**遺構・遺物** 調査では3層下面において遺構検出を行い、結果として土坑を1基検出した。土坑内



図38 調査区配置図（太田遺跡）

からは土師器、須恵器片、瓦器片が出土し、図39にはそのうち図示可能なものを掲げた(18・19)。18は瓦器底部片、19は土師器台付皿ないし低脚杯の脚部である。細片のため、詳細な時期を明らかにしがたいが、11～12世紀の所産であろうか。

まとめ 既往の調査の成果を追認する結果となり、重要な知見を加えることができた。

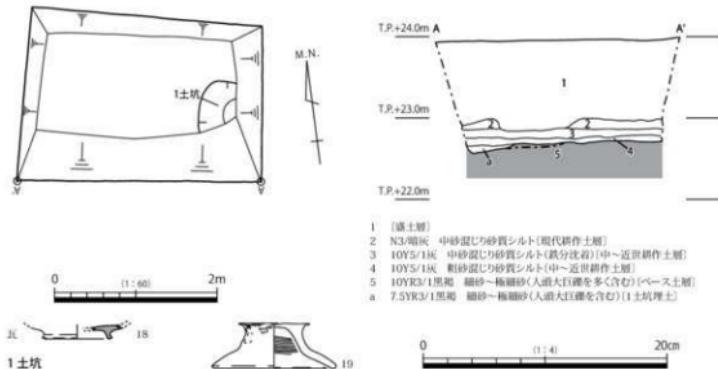


図39 平・断面図・出土遺物 (太田遺跡 2018-3)

## 2. 太田遺跡 2019-1 (図37・38・40 図版9)

調査地 太田二丁目6-8

調査期間 平成31年4月8日

調査面積 6m<sup>2</sup>

調査担当 宮西貴史・木村健明

はじめに 太田二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、3×2mの調査区を設定し、調査を行った。調査地の現況地盤は概ね平坦であり、東面する道路面より約30cm高い。今回の調査地は既

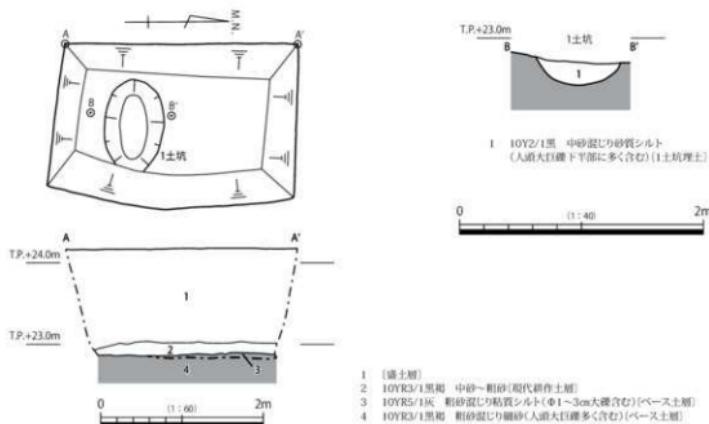


図40 平・断面図 (太田遺跡 2019-1)

往の調査である太田遺跡 2018-1 の造成地内にあり、当該造成地の最北西端に位置している。

**基本層序** 基本層序は、大別して 3 層に区分でき、上層から 1 層：盛土層、2 層：現代耕作土層、3 層：ベース土層の順に堆積を確認した。なお、当該造成地内で実施した太田遺跡 2018-1 を含む各調査区で確認した遺物を包含する土壤層準は認められなかった。ベース土層が相対的に高いことによって地層が収斂していたものと考えられる。

**遺構・遺物** 調査では、2 層の下面において平面的な調査を実施し、調査区の南北部分で南北方向に約 80cm、東西方向に約 100cm、深さ約 20cm を測る土坑を 1 基検出した。遺物は出土しなかったため時期の特定には至らなかったが、宅地造成時に道路部分で行われた発掘調査（太田遺跡 2018-1）で検出した遺構と同時代であるならば、平安時代末頃の遺構である可能性がある。

まとめ 詳細な時期は不明ながらも遺構を検出したほか、既往調査の成果と異なる地層の堆積状況を確認する等、重要な知見を加えることができた。

### 3. 太田遺跡 2019-2（図 37・38・41 図版 10）

**調査地** 太田二丁目 6-9

**調査面積** 6m<sup>2</sup>

**調査期間** 平成 31 年 4 月 8 日

**調査担当** 宮西貴史・木村健明

はじめに 太田二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、3 × 2 m の調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は概ね平坦であり、東面する道路面とほぼ同じである。

**基本層序** 基本層序は大別して 4 層を確認しており、上層から 0 層：盛土層・攪乱、1 層：現代耕作土層（1-1a 層）、2 層：中～近世耕作土層（2-1a 層）3 層：ベース土層（3-1b 層）の順に堆積を確認した。なお、本調査区は当該造成地内における北西部に位置しており、先に述べた太田遺跡 2019-1 から僅かにベース土層が傾斜する結果として、その間に 2-1a 層が遺存したものと考えられる。

**遺構・遺物** 遺構検出は 2-1a 層下面で実施し、調査区の中央部で、東西方向に延びる幅約 80cm、深さ約 30cm を測る溝を 1 条検出した。当該遺構からは、遺物は出土しなかったため時期の特定には至らなかったが、宅地造成時に道路部分で行われた発掘調査（太田遺跡 2018-1）で検出した遺構と同時代であるならば、平安時代末頃の遺構であると推測される。

まとめ 詳細な時期は不明ながらも遺構を検出することができたほか、既往の調査成果と異なる堆積状況も確認できたことから、旧地形の復元にも重要な知見を加えることができた。

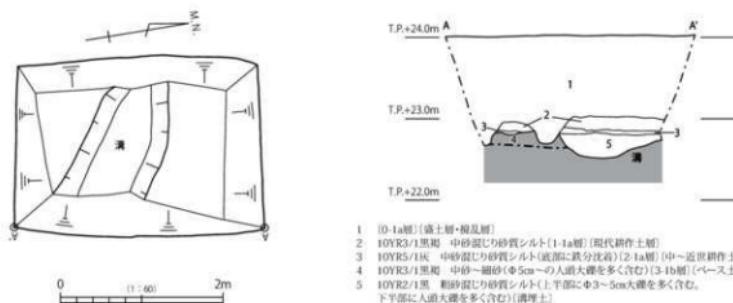


図 41 平・断面図（太田遺跡 2019-2）

## 4. 太田遺跡 2019-3 (図 37・38・42・43 図版 11・12)

調査地 太田二丁目6-11

調査面積 6m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年4月9日

調査担当 宮西貴史・木村健明

はじめに 太田二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、3×2 mの調査区を設定し、調査を行った。調査地の現況地盤は概ね平坦であり、南面する道路面とほぼ同じである。

**基本層序** 基本層序は大別6層を確認し、上層から0層：盛土層・擾乱（0-1a層）、1層：現代耕作土層（1-1a層）、2層：中～近世耕作土層（2-1a層）、3層：土壤化層（3-1a層）、4層：遺物包含層（4-1a層）、5層：ベース土層（5-1b層）の順に堆積を確認した。

本調査区を含む造成地内において、今回の調査地より西側に位置する3区画（東から太田遺跡2018-3、太田遺跡2019-2、太田遺跡2019-1）で行った調査を総合すると、ベース土層を構成する地層の層相は概ね近似しており、このベース土層の高低によって本調査区で確認した2-1a層～4-1a層の遺存状況が異なることを確認できた。

**遺構・遺物** 調査では、平面的な調査を4-1a層下面で実施し、結果として小穴を4基、溝を1条検出した。

遺物は、遺物包含層および遺構埋土から、土師器、須恵器、黑色土器、瓦等が出土した。いずれも平安時代末頃（10～12世紀頃）のものが中心である。細片が多いが、図示可能なものを図43に掲げた。20は3小穴から、21～30はすべて4-1a層中から出土している。

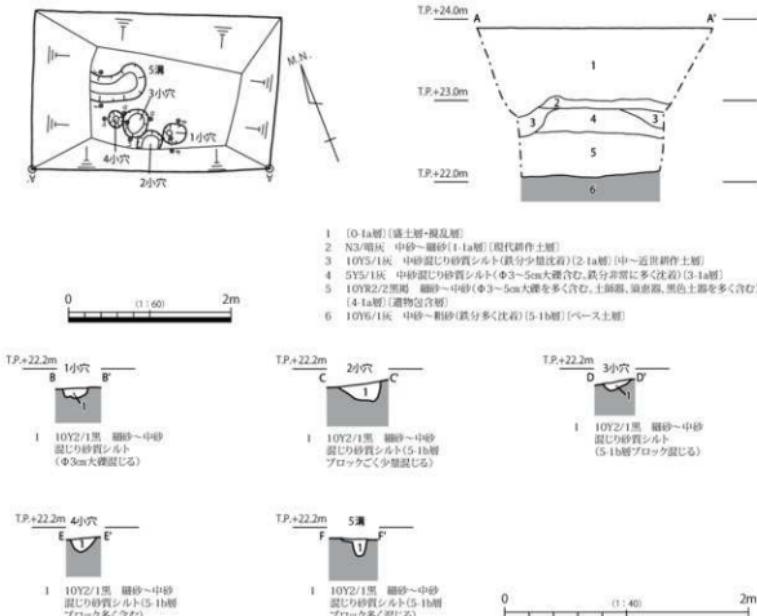


図42 平・断面図 (太田遺跡 2019-3)

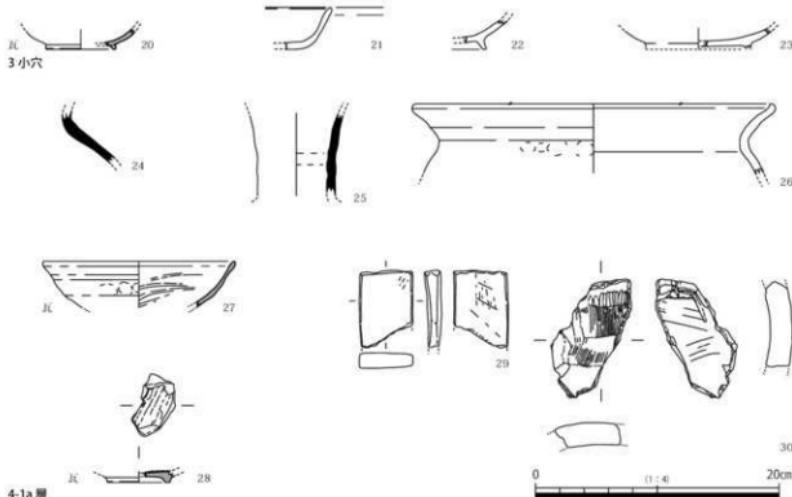


図43 出土遺物（太田遺跡 2019-3）

20は瓦器椀である。細片であるため詳細な時期を明らかにしがたいが、12世紀後半の所産と目される。21は土師器杯、22は土師器椀、23は灰釉陶器、24は須恵器甕、25は須恵器長頸壺、26は土師器甕、27・28は瓦器椀、29は砥石、30は滑石製石鍋片である。いずれも細片が多く、明確な時期比定に困難を伴うものが多いが、9～12世紀代に帰属するものが混在しているものと考えられる。

まとめ 今回の調査地は、西側3区画よりベースとなる層が深い位置にあり、西接する太田遺跡2018-3から今回の調査地へ向かって、大きく落ち込んでいることが明らかとなった。

## 5. 西国街道 2019-1（図37・44・45）

調査地 東太田二丁目426番2

調査期間 平成31年4月11日

調査面積 7.2m<sup>2</sup>

調査担当 富田卓見

はじめに 東太田二丁目で計画された個人住宅の建築に伴い、2.4×3mの調査区を設定し調査を行った。調査地の現況は、東に接する道路面とほぼ同じ高さで、調査区内は概ね平坦である。

基本層序 基本層序は3層に大別でき、上層から0層：盛土層・擾乱（0-1a・0-2a層）、1層：耕作土層（1-1a層）、2層：ベース土層（2-1b・2-2b層）の順に堆積を確認した。

遺構・遺物 平面的な調査は1-1a層を除去した下面において実施し、ピット1基、溝2条を確認した。

1溝は幅0.55m、深さ0.25mを測る。2溝は調査区端部にあるため、全容を窺い知ることはできなかった。溝は2条ともに南北方向に真っ直ぐ平行に延びている。

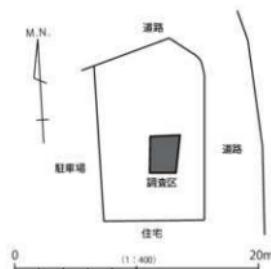


図44 調査区配置図  
(西国街道 2019-1)

遺物は、1・2溝ともに土師器・須恵器の細片が認められた。どちらも磨滅が著しく、溝の時期を示す可能性は低い。1-1a層中から土師器・須恵器・瓦器等の細片が認められたが、後世に混入したものと考えられる。このうち図示可能なものを図45に掲げた(31~33)。31は瓦器梶片、32は東播系須恵器片口鉢片、33は瓦質土器羽釜片である。このほか、0層からは寛永通宝が出土した。

まとめ 今回の調査では、溝を確認した。検出した1・2溝は、検出状況や土層断面観察の判断では比較的新しい時期の耕作溝である可能性が高い。



図45 平・断面図（西国街道 2019-1）

## 6. 総持寺遺跡 2018-4 (図46・47)

調査地 西河原二丁目48番3の一部、48番5の一部

調査面積 9m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年2月5日

調査担当 富田卓見

はじめに 西河原二丁目で計画された個人住宅の建築に伴い3×3mの調査区を設定し調査を行った。なお、申請敷地内の建物建築部分は、南に接する道路面より約80cm高い。

基本層序 基本層序は3層に大別でき、上層から0層:現代盛土層、1層:耕作土層(1-1a・1-2a層)、2層:耕作土層(2-1a・2-2a層)、3層:水成層の可能性のある層準(3-1b～3-3b層)の順に堆積を確認した。いずれの地層からも遺物は認められず、各層の形成時期は不明である。なお、今回確認した掘削底よりさらに下層については、湧水による壁面の崩落のため確認することができなかった。

遺構・遺物 1-1a層下面において平面的な調査を実施し、溝1条を確認した。1溝は、幅0.9m以上、深さ0.4mを測り、東西方向に延びる。埋土中からは遺物は認められなかった。断面観察の結果として得られた層相から、この溝は近現代の暗渠である可能性が考えられる。

まとめ 今次調査では、近世以前と明確に認められる遺構は確認できなかった。過去に西隣地にて実施した調査では、南北にのびる鎌倉時代の溝が確認されているが、今次調査では当該期の遺構・遺物は

### 第3章 調査の成果

確認していない。さらに下層に残存しているのか、もしくは削平を受けているかは、現時点では明らかにすることできない。周辺の調査成果の追加を俟って慎重に検討する必要がある。

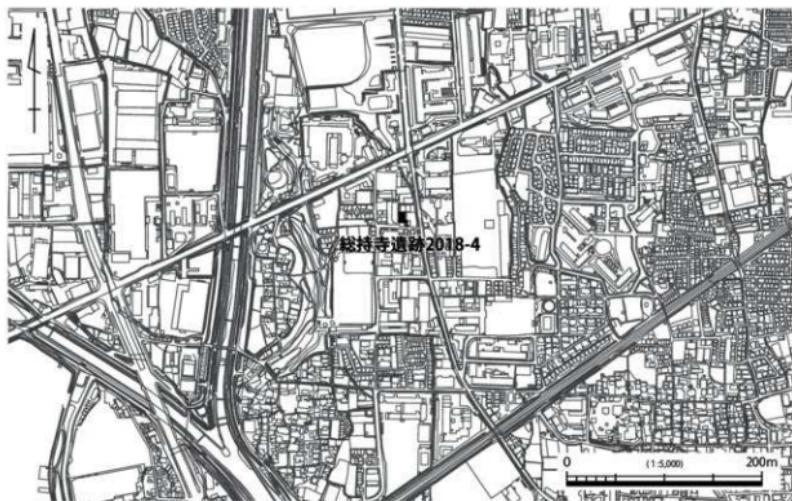


図46 総持寺遺跡調査区位置図

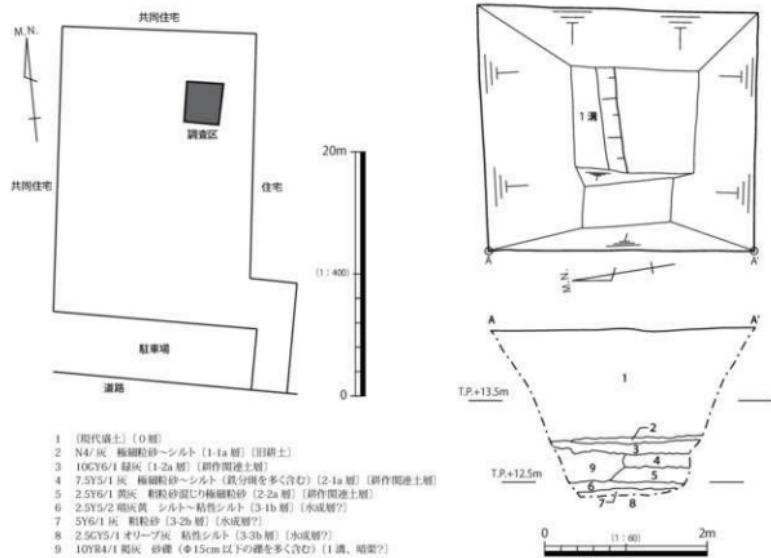


図47 平・断面図（総持寺遺跡 2018-4）

## 第5節 舟木遺跡・牟礼遺跡

### 1. 舟木遺跡 2019-1 (図 48・49)

調査地 舟木町535番1

調査面積 4m<sup>2</sup>

調査期間 令和元年5月28日

調査担当 正岡大実



図 48 舟木遺跡・牟礼遺跡調査位置図



図 49 断面柱状図 (舟木遺跡 2019-1)

はじめに 舟木町において計画された個人住宅の建築に伴い、2 × 2 mの調査区を設定して調査を行った。調査地の現況地盤は南面する道路面とほぼ同じであり、調査地内もほぼ平坦である。

基本層序 基本層序は、大別4層、細別11層を確認した。

遺物が出土しなかったため、各地層の詳細な時期比定は層相からの推測に留まるが、各層の概要は上層から0層：盛土・現代耕作土層（0-1a～0-3a層）、1層：近世と目される耕作土層（1-1a～1-3a層）、2層：中世に堆積した可能性のある水成層（2-1b層）、3層：中世以前に形成された可能性のある耕作土層及び水成層（3-1a・3-2b層）、4層：中世以前に形成された可能性のある土壌層及び水成層（4-1a・

4-2b層)の順に堆積を確認した。

**遺構・遺物** 調査にあたっては、明瞭な層理面を形成していた1-3a層及び3-1a層下面の合計2面において遺構検出を試みたが、遺構・遺物は確認できなかった。また、4層以下の層準については湧水による壁面の崩落の危険性が生じたため、確認することができなかつた。

まとめ 今次調査地の西側約30mと接した地点には、本包蔵地の発見契機となった調査地(舟木遺跡1995-1)が位置する。この調査では、平安時代後期～末にかけての居住域と目される遺構・遺物が確認されているほか、部分的ながらも下層から弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の遺物が確認されている。このうち、前者の平安時代の遺構面は、現況地盤より概ね1m前後の深度で確認されており、今次調査の1面が当該遺構面に比定できる可能性が極めて高い。しかしながら、前述のとおり遺構・遺物の検出には至らなかつたため、可能性の一つとして、平安時代の居住域は今次調査地の周辺までは延びておらず、極めて限定的な分布を示していたことが想定することができよう。

なお、4層以下の層準では弥生～古墳時代にかけての遺構・遺物が存在する可能性もあるが、今次調査では確たる情報を得ることができなかつた。これについては周辺の調査事例の追加を俟って検討を進める必要がある。

## 2. 牟礼遺跡2019-1(図48・50)

**調査地** 園田町773番4、773番3

**調査面積** 6m<sup>2</sup>

**調査期間** 令和元年8月22日

**調査担当** 木村健明

はじめに 園田町において計画された個人住宅の建築に伴い、2×3mの調査区を設定し、調査を行つた。調査地の現況地盤は南面する道路面とほぼ同じである。

**基本層序** 調査地の基本層序は、細別12層に区分でき、上層から1：盛土層、2：灰色粘質シルト(耕作土層)、3：灰色粘質シルト混じり粗砂、4：灰色粗砂、5：灰白色粗砂、6：灰色粗砂混じり粘質シルト、7：灰色粘質シルト混じり粗砂、8：灰色粘質シルト混じり粗砂、9：黄灰色粘質シルト混じり粗砂、10：褐色粘土、11：灰色粗砂、12：暗灰色粘土の順に堆積を確認した。

**遺構・遺物** 調査の結果、遺構・遺物は確認できなかつた。

まとめ 粘土ないし粘質シルトと粗砂が交互に堆積していることから、明確な面を確認できず、遺物も出土しなかつた。低湿な環境下にあったことが想定される。なお、下位層準については、湧水による壁面の崩落もあり、確認できなかつた。

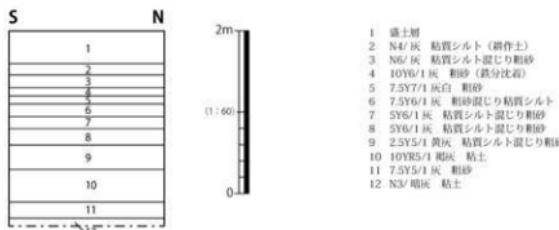


図50 断面柱状図(牟礼遺跡2019-1)

## 第6節 五日市遺跡・三宅城跡

### 1. 五日市遺跡 2019-1 (図 60 ~ 62)

調査地 耳原一丁目325番10及び325番15

調査期間 平成31年4月18日

調査面積 6.25m<sup>2</sup>

調査担当 富田卓見



図 60 五日市遺跡調査位置図

はじめに 耳原一丁目で計画された個人住宅の建築に伴い  $2.5 \times 2.5$  m の調査区を設定し調査を行った。なお、調査地の現況地盤は、南に接する道路面とほぼ同じ高さで、調査区内は概ね平坦である。

**基本層序** 基本層序は 5 層に大別でき、上層から 0 層：現代盛土層・搅乱（0-1a・0-2a 層）、1 層：近現代耕作土層（1-1a～1-4a 層）、2 層：耕作土層（2-1a・2-2a 層）、3 層：ベース土層（3-1b 層）、4 層：水成層（4-1b 層）の順に堆積を確認した。

**遺構・遺物** 遺構検出は 2-2a 層の下面において実施したが、遺構・遺物等の埋蔵文化財は認められなかった。

**まとめ** 今回の調査では、遺構・遺物とともに認められなかった。断面観察の所見から、耕作土層が累重していることが明らかであり、耕作地として利用されていたことが窺われる。また、3 層以下については、水成層が厚く堆積している可能性が高いことが判明した。

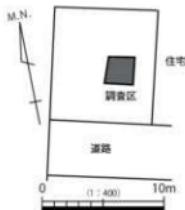


図 61 調査区配置図  
(五日市遺跡 2019-1)

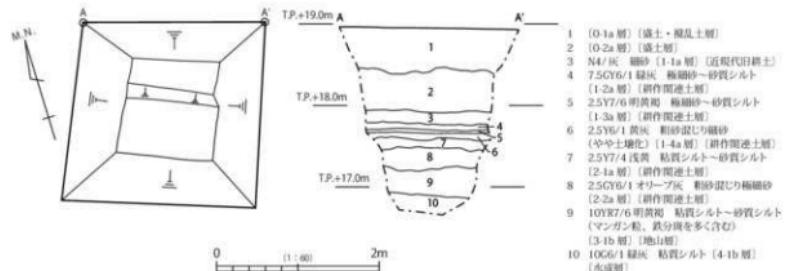


図 62 平・断面図 (五日市遺跡 2019-1)

## 2. 三宅城跡 2019-1 (図 63 ~ 65)

調査地 丑寅二丁目354番20

調査面積 5m<sup>2</sup>

調査期間 令和元年10月10日

調査担当 富田卓見

はじめに 丑寅二丁目で計画された個人住宅建築の建築に伴い、2 × 2.5 mの調査区を設定し調査を行った。なお、調査地の現況地盤は西面する道路面とほぼ同じで、調査区内は概ね平坦である。

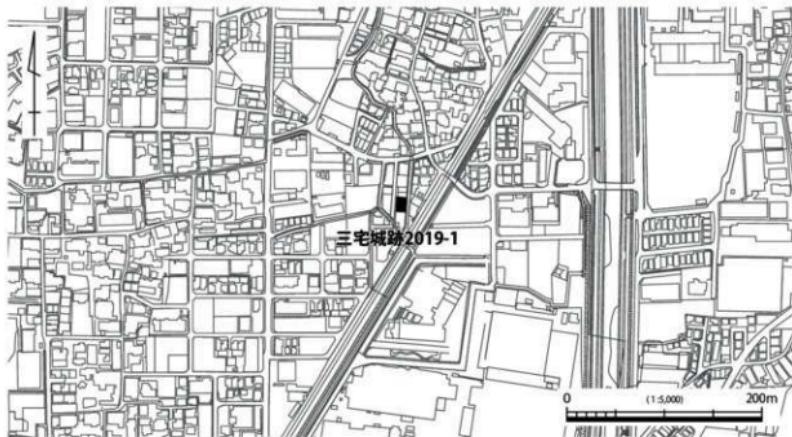


図 63 三宅城跡調査位置図

**基本層序** 基本層序は、大きく3層に大別。上層より0層：現代盛土層・攪乱(0-1a・0-2a層)、1層：耕作土層(1-1a層)、2層：水成層(2-1b層)の順に堆積を確認した。調査地が狭小であったため、遺構検出は成し得なかったほか、下位層についても湧水による壁面の崩落のため、確認できなかった。

**遺構・遺物** 遺構・遺物等の埋蔵文化財は認められなかつた。

**まとめ** 今回の調査では、集落などの痕跡は認められなかつた。調査地東側には水路が通っているが、かつては自然流路として存在し、当該地もその影響を受けていた可能性がある。

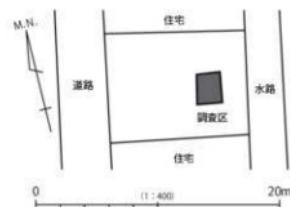


図 64 調査区配図図（三宅城跡 2019-1）

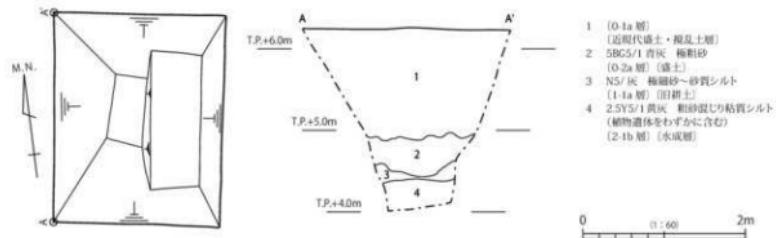


図 65 平・断面図（三宅城跡 2019-1）

写 真 図 版





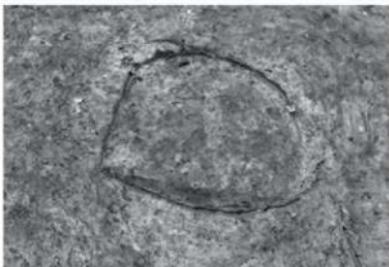
1. 春日遺跡 2019-2 1面完掘状況（南から）



2. 調査区東壁断面（西から）



3. 1面 1小穴断面（東から）



4. 1面 2小穴断面（南から）



5. 1面 3小穴断面（東から）



1. 春日遺跡 2019-5 1面完掘状況（北から）



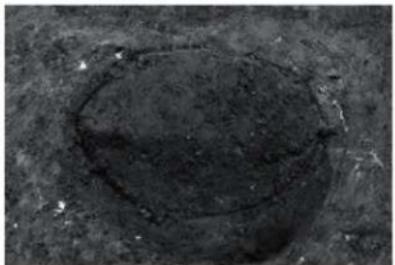
2. 調査区東壁断面（西から）



1. 郡遺跡・三島街道 2019-2 1面完掘状況（南から）



2. 調査区東壁断面（西から）



3. 1面3ピット断面（南から）



4. 1面2ピット断面（南から）



5. 1面5ピット断面（南から）



1. 倍賀遺跡 2019-3  
1面完掘状況（西から）



2. 調査区東壁断面（西から）



3. 1面1ピット断面（南から）

1. 東奈良遺跡 2019-1  
2面完掘状況（南から）



2. 調査区北壁断面（南から）



3. 2面1溝遺物出土状況  
(北西から)





1. 東奈良遺跡 2019-4 1面完掘状況（北から）



2. 調査区南壁断面（北から）



3. 1面1土坑断面（南から）



4. 1面2土坑断面（東から）



5. 1面3小穴断面（南西から）



1. 東奈良遺跡 2019-7 1面完掘状況（南から）



2. 調査区西壁断面（東から）



1. 東奈良遺跡 2019-7 西壁断面下部（東から）

2. 1面1小穴断面（南から）



3. 1面2土坑断面（南西から）



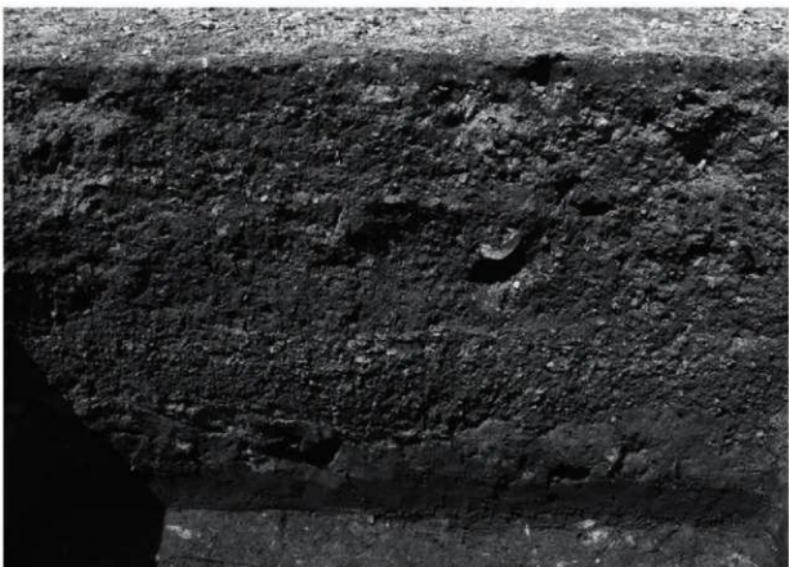
4. 1面3土坑断面（東から）



5. 東奈良遺跡 2019-5・2019-7 出土遺物



1. 太田遺跡 2019-1 1面完掘状況（北から）



2. 調査区西壁断面（東から）



1. 太田遺跡 2019-2 1面完掘状況（北から）



2. 調査区東壁断面（西から）



1. 太田遺跡 2019-3 1面完掘状況（東から）



2. 調査区南壁断面（北から）



1. 太田遺跡 2019-3 1面1小穴断面（西から）



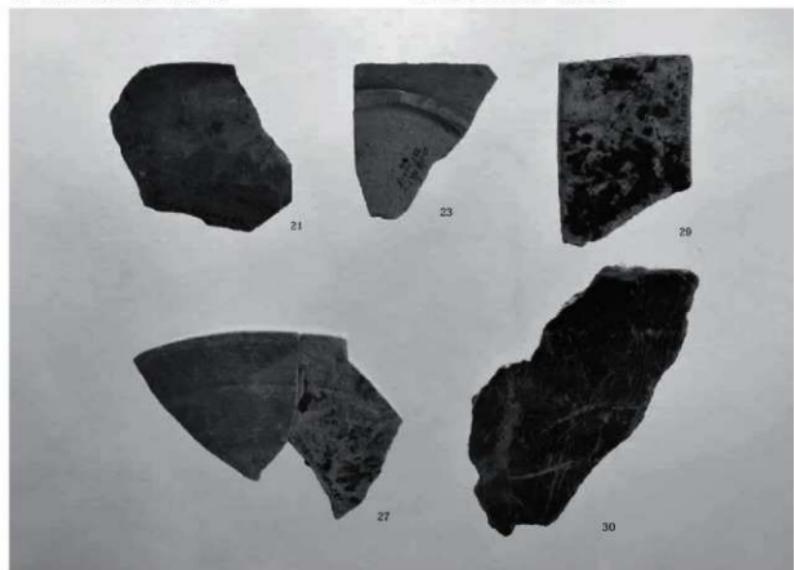
2. 1面2小穴断面（北から）



3. 1面3小穴断面（北から）



4. 1面4小穴断面（北から）



5. 太田遺跡 2019-3 出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	せいmuかんneん どいぼらkいしまいぞうぶんかさいはっくつちょうsaがくゆうわいseいかんneんどこっこほじよじょう
書名	令和元年度茨木市埋蔵文化財発掘調査概報—令和元年度国庫補助事業—
シリーズ名	茨木市文化財資料集
シリーズ番号	第74集
編著者	木村健明、坂田典彦、高村勇士、富田卓見、正岡大実、宮西貴史
編集機関	茨木市教育委員会
所在地	〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号
発行年月日	令和2年（2020）3月31日

所収遺跡	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
茨木遺跡2018-5	宮元町	34° 49' 16"	135° 34' 27"	20190307	4.5m <sup>2</sup>	
茨木遺跡2019-1	宮元町	34° 49' 16"	135° 34' 25"	20190404	7.5m <sup>2</sup>	
茨木遺跡2019-2	本町	34° 49' 05"	135° 34' 25"	20190517	6m <sup>2</sup>	
茨木遺跡2019-5	上泉町	34° 49' 24"	135° 34' 20"	20190820	6m <sup>2</sup>	
郡遺跡2018-5	上穂積二丁目	34° 49' 26"	135° 33' 34"	20190218	6m <sup>2</sup>	
中穂積遺跡・三島街道2019-1	中穂積一丁目	34° 49' 00"	135° 33' 25"	20190401	4m <sup>2</sup>	
倍賀遺跡2019-1	春日五丁目	34° 49' 27"	135° 33' 45"	20190423	6m <sup>2</sup>	
春日遺跡2019-2	春日三丁目	34° 49' 20"	135° 33' 45"	20190730	5m <sup>2</sup>	
春日遺跡2019-5	上穂東町	34° 49' 13"	135° 33' 37"	20190829	9m <sup>2</sup>	
郡遺跡・三島街道2019-2	郡四丁目	34° 49' 52"	135° 33' 22"	20190925	7.5m <sup>2</sup>	
信賀遺跡2019-3	春日四丁目	34° 49' 23"	135° 33' 59"	20191024	7.5m <sup>2</sup>	
東奈良遺跡2018-8	沢良宜西二丁目	34° 47' 53"	135° 33' 53"	20190228	9m <sup>2</sup>	
東奈良遺跡2018-9	沢良宜西二丁目	34° 47' 45"	135° 33' 52"	20190326	4m <sup>2</sup>	
東奈良遺跡2019-1	東奈良二丁目	34° 48' 08"	135° 34' 08"	20190704	4m <sup>2</sup>	
東奈良遺跡2019-4	東奈良二丁目	34° 48' 09"	135° 34' 07"	20190826	4m <sup>2</sup>	
東奈良遺跡2019-5	東奈良二丁目	34° 48' 08"	135° 34' 07"	20190827	4m <sup>2</sup>	
東奈良遺跡2019-7	東奈良二丁目	34° 48' 08"	135° 34' 07"	20191114	4m <sup>2</sup>	
東奈良遺跡2019-6	東奈良二丁目	34° 48' 18"	135° 34' 10"	20191031	6m <sup>2</sup>	
中条小学校遺跡2019-3	西中条町	34° 48' 44"	135° 33' 53"	20190606	6m <sup>2</sup>	
太田遺跡2018-3	太田二丁目	34° 50' 32"	135° 34' 30"	20190325	6m <sup>2</sup>	
太田遺跡2019-1	太田二丁目	34° 50' 33"	135° 34' 29"	20190408	6m <sup>2</sup>	
太田遺跡2019-2	太田二丁目	34° 50' 33"	135° 34' 30"	20190408	6m <sup>2</sup>	
太田遺跡2019-3	太田二丁目	34° 50' 32"	135° 34' 31"	20190409	6m <sup>2</sup>	
西国街道2019-1	東太田二丁目	34° 50' 32"	135° 34' 45"	20190411	7.2m <sup>2</sup>	
醍持寺遺跡2018-4	西河原二丁目	34° 49' 58"	135° 34' 35"	20190205	9m <sup>2</sup>	
舟木遺跡2019-1	舟木町	34° 48' 47"	135° 34' 32"	20190528	4m <sup>2</sup>	
牟礼遺跡2019-1	園田町	34° 48' 49"	135° 34' 48"	20190822	6m <sup>2</sup>	
五日市遺跡2019-1	耳原一丁目	34° 50' 06"	135° 33' 46"	20190418	6.25m <sup>2</sup>	
三宅城跡2019-1	丑寅二丁目	34° 47' 39"	135° 33' 32"	20191010	5m <sup>2</sup>	

個人住宅  
建設工事

所収遺跡	種別	主な時代	遺構	遺物	特記
茨木遺跡2018-5	集落跡	中世	—	土師器	
茨木遺跡2019-1	集落跡	中世	—	—	
茨木遺跡2019-2	集落跡	中世	—	瓦、陶磁器、瓦器	
茨木遺跡2019-5	集落跡	中世	—	—	
郡遺跡2018-5	集落跡	弥生・古墳	—	土師器	
中桃積遺跡・三島街道2019-1	集落跡 その他	奈良・平安 中世・近世	—	—	
倍賀遺跡2019-1	社寺跡	古墳	土坑、小穴	土師器、黒色土器	
春日遺跡2019-2	集落跡	古墳	小穴	土師器、黒色土器	
春日遺跡2019-5	集落跡	古墳	溝、土坑、ピット	土師器、須恵器	
郡遺跡・三島街道2019-2	集落跡/ その他の遺跡(街道)	弥生/古墳/近世	溝、落ち込み、ピット	土師器、須恵器、瓦質土器	
倍賀遺跡2019-3	社寺跡	古墳	ピット	土師器、須恵器	
東奈良遺跡2018-8	集落跡	弥生・古墳	—	—	
東奈良遺跡2018-9	集落跡	弥生・古墳	—	—	
東奈良遺跡2019-1	集落跡	弥生・古墳	溝	弥生土器	
東奈良遺跡2019-4	集落跡	弥生・古墳	土坑、小穴	—	
東奈良遺跡2019-5	集落跡	弥生・古墳	小穴	弥生土器	
東奈良遺跡2019-7	集落跡	弥生・古墳	土坑、小穴	弥生土器	
東奈良遺跡2019-6	集落跡	弥生・古墳	—	—	
中条小学校遺跡2019-3	集落跡	弥生・古墳	—	弥生土器	
太田遺跡2018-3	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世	土坑	土師器、須恵器、瓦器	
太田遺跡2019-1	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世	土坑	—	
太田遺跡2019-2	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世	溝	—	
太田遺跡2019-3	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世	溝、小穴	土師器、須恵器、黒色土器、瓦、石製品	
西国街道2019-1	その他	近世	溝、ピット	土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、錢貨	
總持寺遺跡2018-4	集落跡	弥生・古墳	—	—	
舟木遺跡2019-1	集落跡	平安・中世	—	—	
牟礼遺跡2019-1	集落跡	縄文	—	—	
五日市遺跡2019-1	集落跡	その他	—	—	
三宅城跡2019-1	城館跡	中世	—	—	

茨木市文化財資料集 第74集

令和元年度 茨木市埋蔵文化財発掘調査概報

—令和元年度国庫補助事業—

発行日 令和2年3月31日

発行 茨木市教育委員会

印刷 株式会社トウユー